

第5章 集計結果（★は新設）

1. 四万十川の保全に対する取組

（1）「公益財団法人四万十川財団」の知名度等

問1 あなたは、「公益財団法人四万十川財団」という組織をご存知ですか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「知らない」と答えた人の割合が71.0%（前回：66.6%）と前回調査から4.4ポイント増加しており、前回に引き続き「公益財団法人四万十川財団」の知名度が低いことがうかがえた。
- ・「知らない」と答えた人の割合は、性別間で大きな差はなく、男性が70.1%（前回：64.1%）で、女性は71.8%（前回：69.2%）と男女ともに前回調査から増加した。

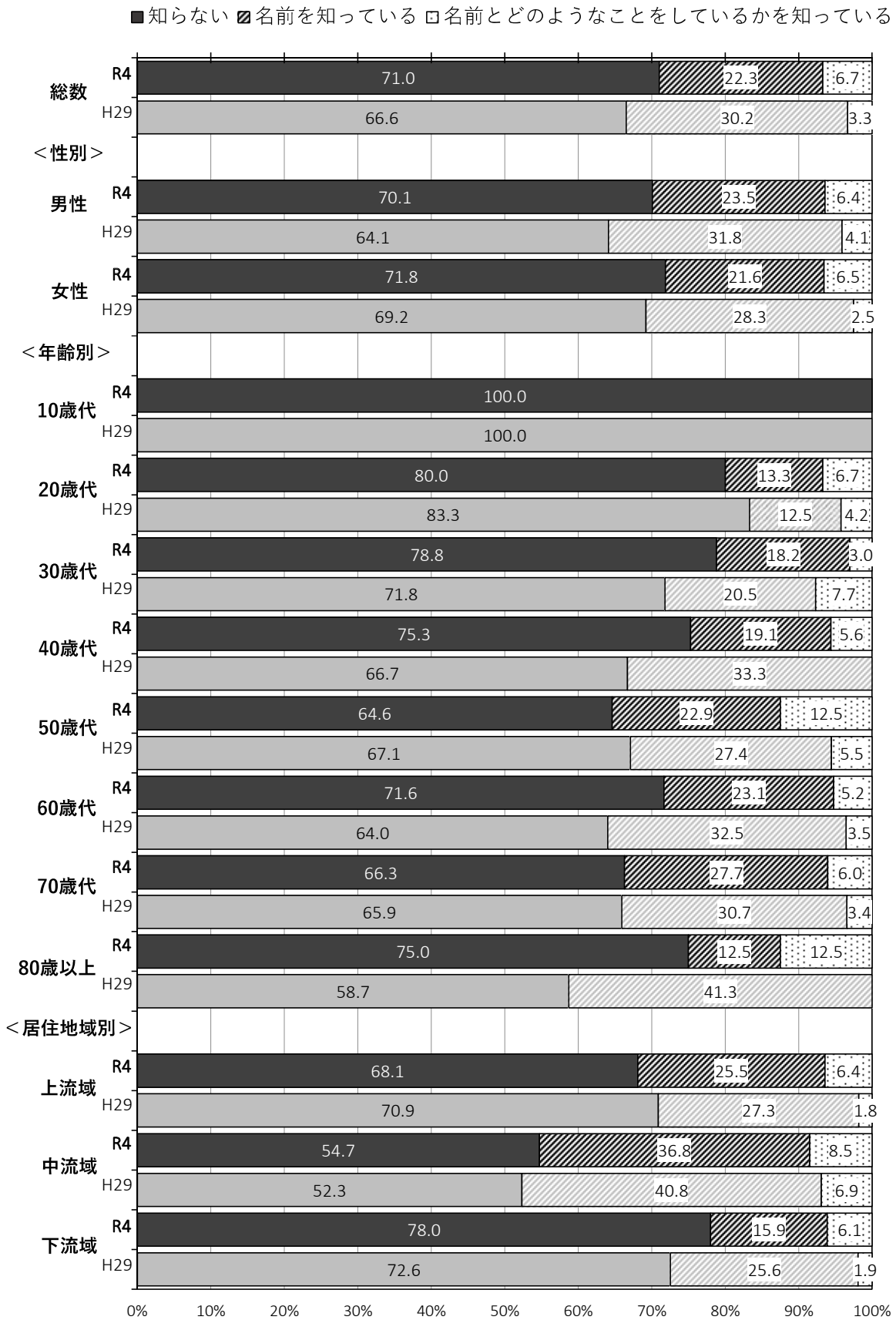
【年齢別】

- ・「知らない」と答えた人の割合は、10歳代が100.0%（前回：100.0%）で最も高く、30歳代～40歳代、60歳代以上では前回調査から増加しており、特に80歳以上では16.3ポイント（今回：75.0%・前回：58.7%）と最も増加した。
- ・「名前を知っている」と答えた人の割合は、30歳代以上の年代で前回調査から減少した。また、80歳以上を除いて年齢が高くなるにつれて「名前を知っている」と答えた人の割合が高い傾向が見られた。
- ・「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた人の割合は、20歳代、40歳代以上で前回より増加した。

【居住地域別】

- ・「知らない」と答えた人の割合が最も高かったのは下流域の78.0%（前回：72.6%）で、前回調査から5.4ポイント増加した。
- ・「知らない」と答えた人の割合が最も低かったのは中流域の54.7%（前回：52.3%）で、前回調査から2.4ポイント増加した。
- ・中流域では「名前とどのようなことをしているかを知っている」が8.5%（前回：6.9%）であり、その他の流域と比べて知名度が高い特徴が見られた。

図表 「公益財団法人四万十川財団」の知名度等



(2)「公益財団法人四万十川財団」に求める情報★

問1で「名前とどのようなことをしているかを知っている」と答えた方にお聞きします。

問2 あなたが四万十川について、「公益財団法人四万十川財団」に情報発信してほしい内容を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合が56.7%と最も高く、次いで「講演会や学習会等の情報」が43.3%で、「レクリエーション情報」が40.0%であった。

【性別】

- ・男女ともに「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合が最も高く、女性は同率で「レクリエーション情報」(60.0%)であった。

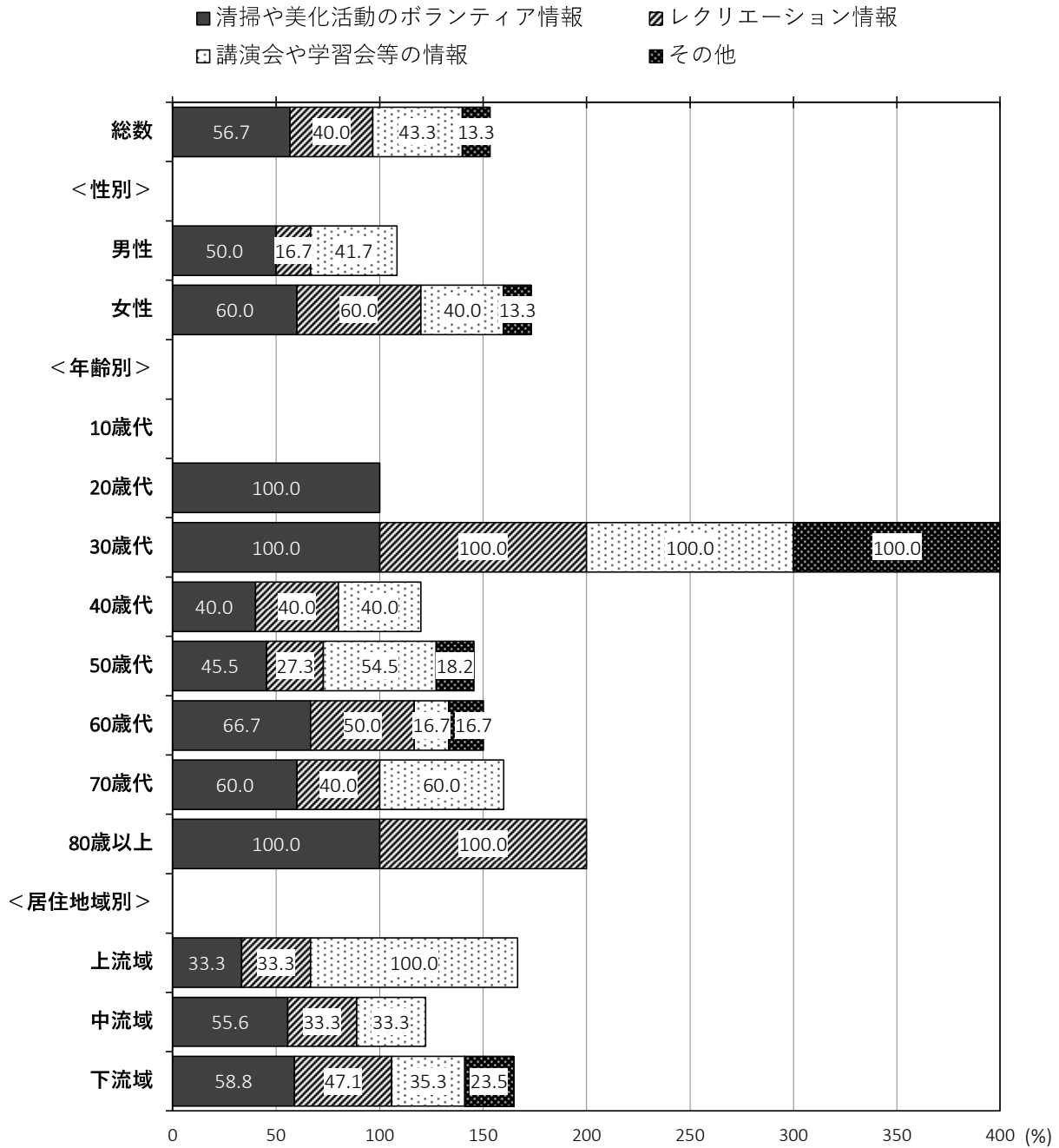
【年齢別】

- ・年代によって「清掃や美化活動のボランティア情報」「講演会や学習会等の情報」「レクリエーション情報」と答えた人の割合が分散した。

【居住地域別】

- ・中流域と下流域では「清掃や美化活動のボランティア情報」と答えた人の割合が5割以上と最も高く、上流域では「講演会や学習会等の情報」と答えた人の割合が100.0%と最も高くなった。

図表 「公益財団法人四万十川財団」に求める情報



(3)「四万十川条例」の知名度等

問3 あなたは、「四万十川条例（正式名称：高知県四万十川の保全及び流域の振興に関する基本条例）」をご存知ですか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「知らない」と答えた人の割合は68.5%（前回：63.3%）と前回調査から5.2ポイント増加しており、前回に引き続き「四万十川条例」の知名度が低いことがうかがえた。

【性別】

- ・「知らない」と答えた人の割合は、男性が62.4%（前回：56.8%）で、女性は73.8%（前回：69.7%）と男女ともに前回調査から増加しており、男性より女性の方が1割以上割合が高くなった。

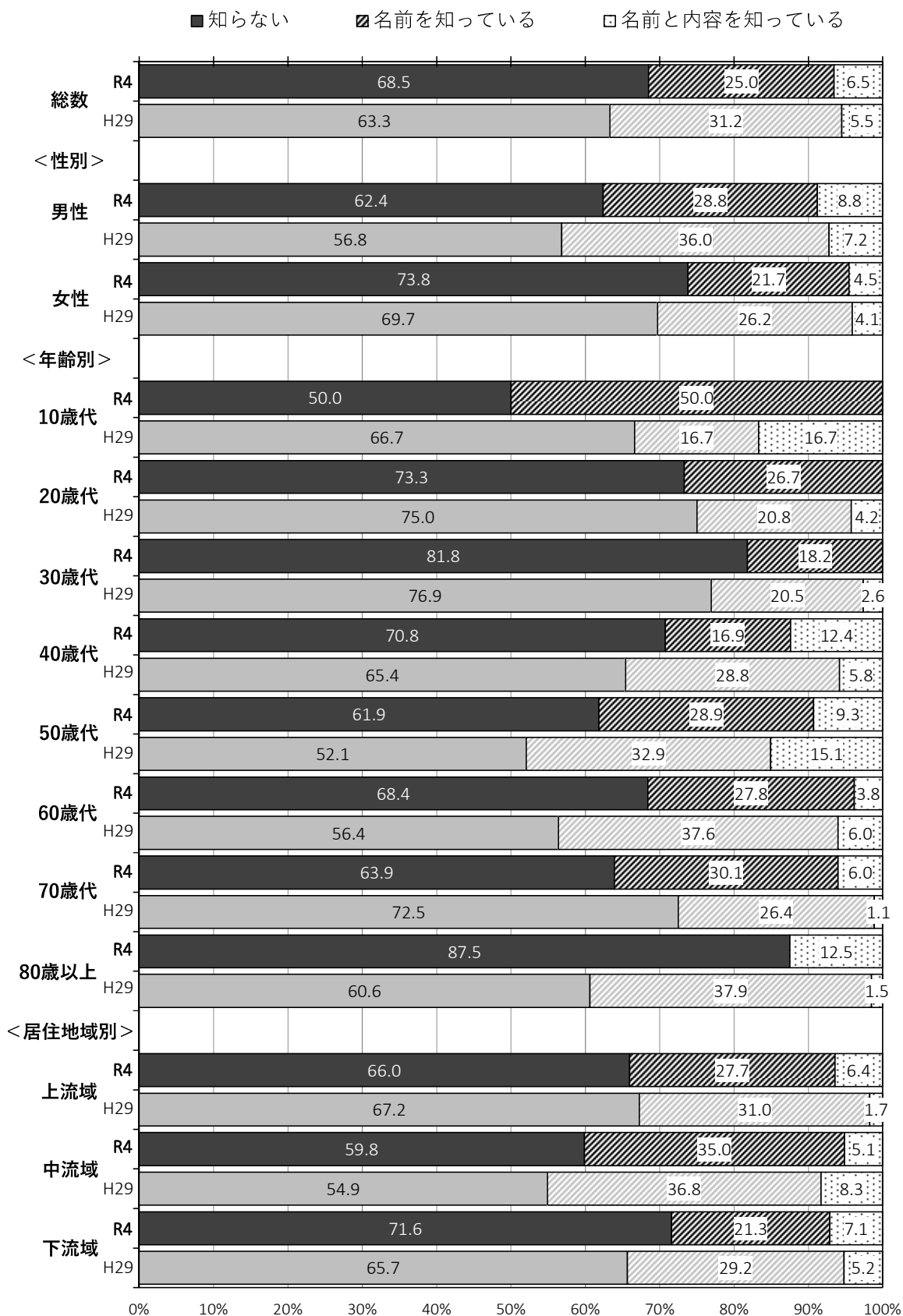
【年齢別】

- ・「知らない」と答えた人の割合が最も高くなったのは80歳以上の87.5%（前回：60.6%）で前回調査から26.9ポイント増加した。また、10歳代、20歳代、70歳代以外の年代で前回調査よりも増加した。
- ・「名前を知っている」と答えた人の割合が前回調査から減少したのは30歳代～60歳代、80歳代以上であった。
- ・「名前と内容を知っている」と答えた人の割合は、10歳代～30歳代で0.0%、50歳代～70歳代が1割を下回った。
- ・前回調査より知名度が上がったのは20歳代、70歳代で、「知らない」と答えた人の割合は20歳代が73.3%（前回：75.0%・1.7ポイント減少）、70歳代が63.9%（前回：72.5%・8.6ポイント減少）であった。

【居住地域別】

- ・「知らない」と答えた人の割合は、下流域が71.6%（前回：65.7%）と最も高く、前回調査から5.9ポイント増加した。
- ・「名前を知っている」と答えた人の割合は、全ての流域で前回調査から減少した。
- ・「名前と内容を知っている」と答えた人の割合は、全ての流域で1割を下回ったが、上流域と下流域では前回調査よりも増加した。
- ・中流域は、「名前を知っている」が35.0%（前回：36.8%・1.8ポイント減少）、「名前と内容を知っている」が5.1%（前回：8.3%・3.2ポイント減少）と、その他の流域と比べて知名度が高い特徴が見られるものの、前回調査よりも減少している。

図表 「四万十川条例」の知名度等



(4) 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組★

問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問4 あなたは、四万十川条例の取組が四万十川流域の保全と振興に効果があったと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つだけ○印をつけてください。

【全体】

- ・全6項目中、『そう思う』（「そう思う」＋「どちらかといえばそう思う」と答えた割合が最も高かったのは、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」が66.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が64.7%、「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」が63.3%となっており、全ての項目で『そう思う』が5割を超えた。

【性別】

- ・全6項目中5項目で男性より女性の方が『そう思う』と答えた割合が高く、全ての項目で6割以上となっており、特に「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」と「環境学習の推進及び情報発信」ではいずれも74.1%と最も高くなった。
- ・女性より男性の方が『そう思う』と答えた割合が高かった項目は、「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」で68.4%であった。

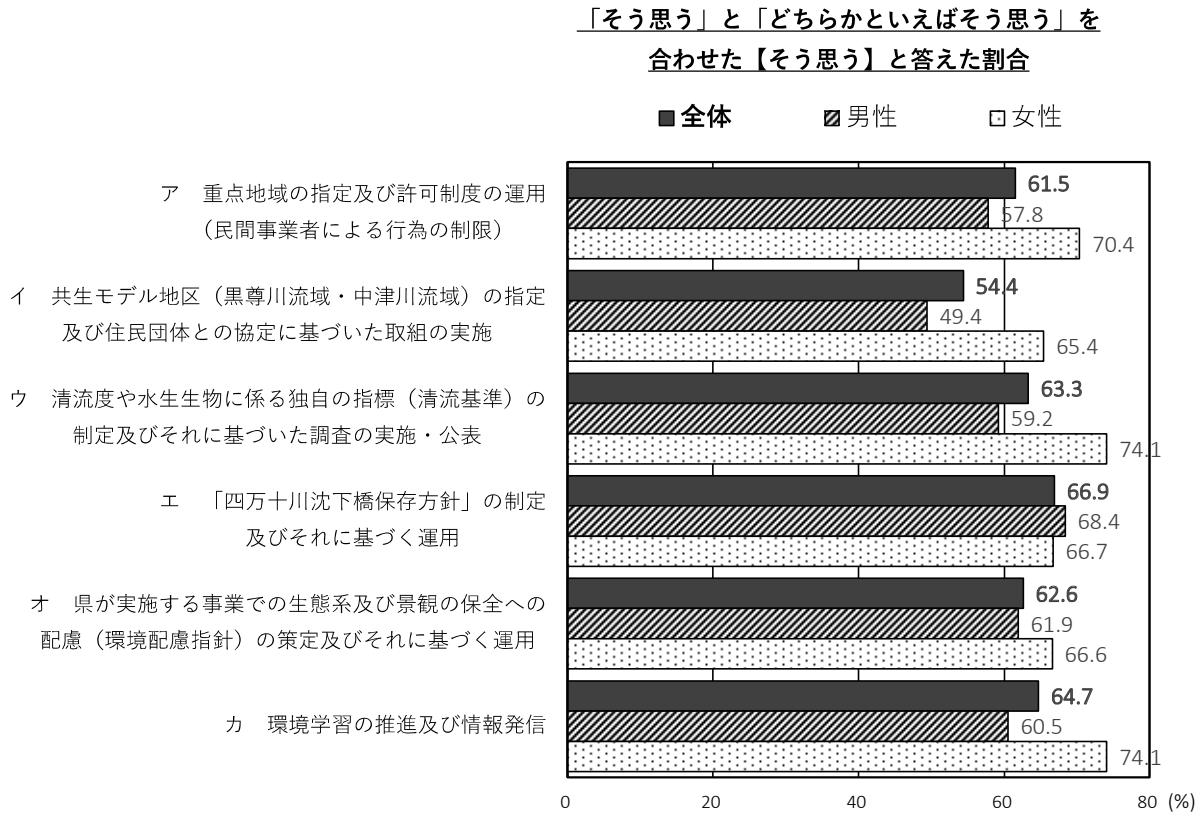
【年齢別】

- ・30歳代で「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」において『そう思う』と答えた割合が83.4%と高くなった。
- ・70歳代で「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用」において『そう思う』と答えた割合が76.9%と高くなった。
- ・80歳代以上では「重点地域の指定及び許可制度の運用（民間事業者による行為の制限）」において『そう思う』と答えた割合が100.0%で、その他の項目は0.0%であった。

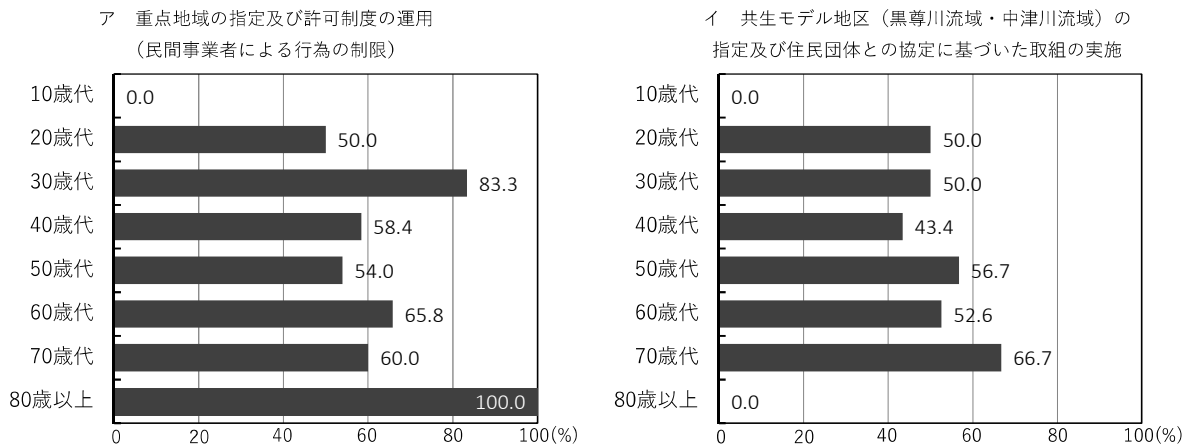
【居住地域別】

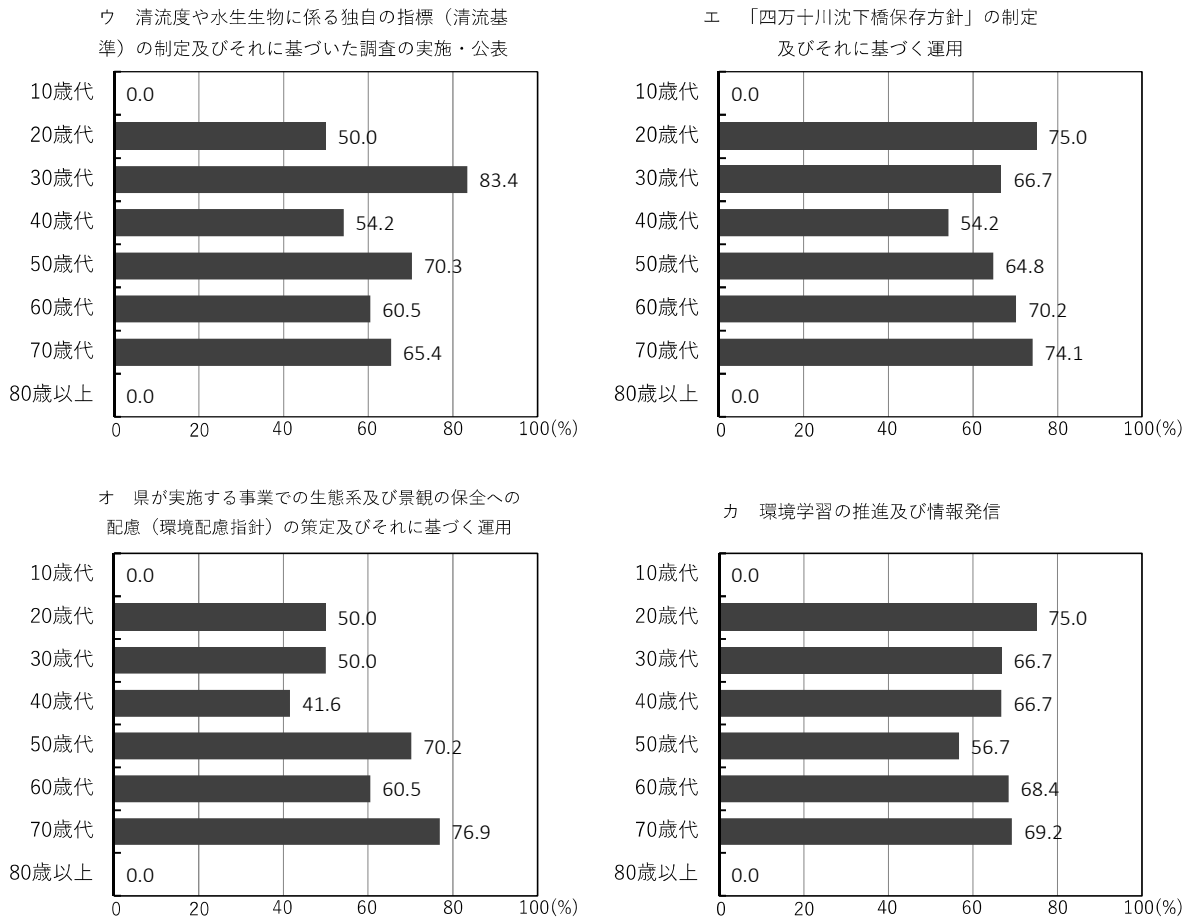
- ・上流域では「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針）の策定及びそれに基づく運用」において『そう思う』と答えた割合が73.3%と高くなった。
- ・中流域では「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）の制定及びそれに基づいた調査の実施・公表」と答えた割合が69.8%と高くなった。
- ・下流域では「四万十川沈下橋保存方針」の制定及びそれに基づく運用」において『そう思う』と答えた割合が69.2%と高くなった。

図表 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組 <全体+性別>

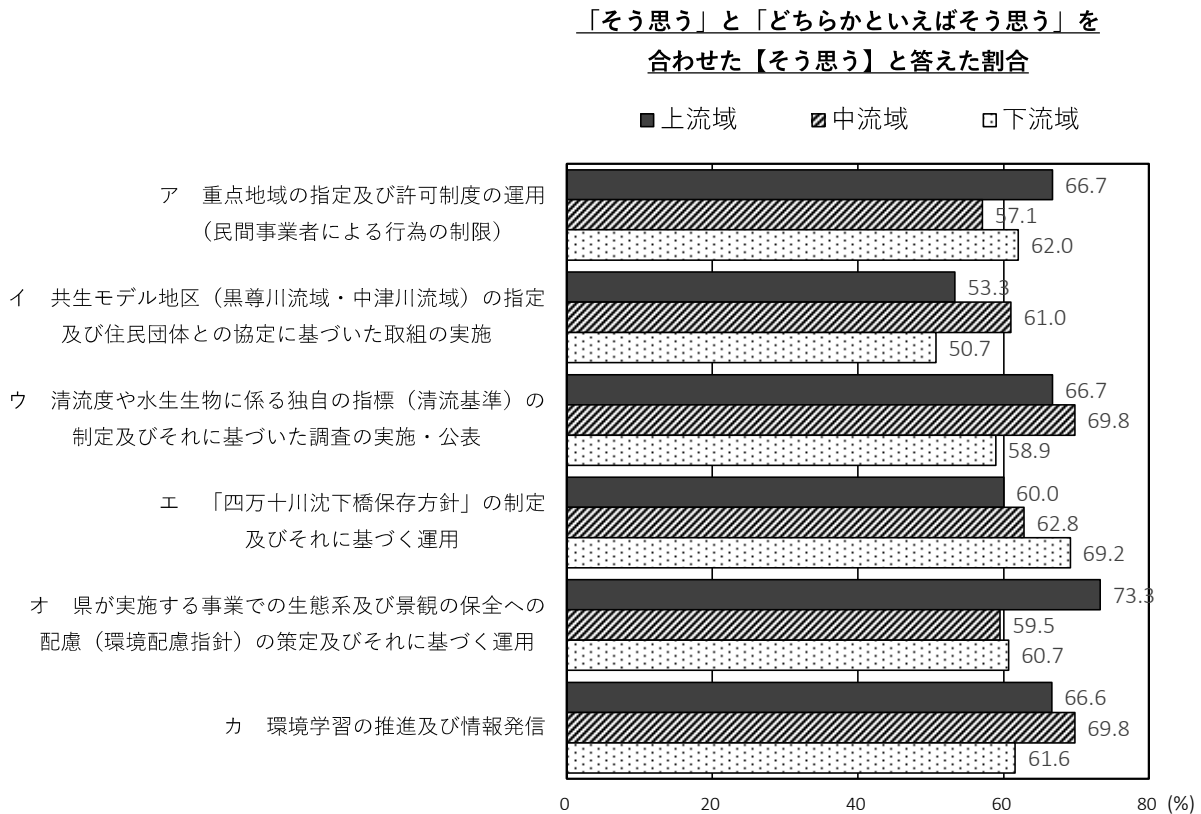


図表 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組 <年齢別>





図表 四万十川流域の保全と振興に効果があったと思う取組 <居住地域別>



(5) 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組★

問3で「名前を知っている」又は「名前と内容を知っている」と答えた方にお聞きします。

問5 あなたは、四万十川流域の保全と振興をより進めるためには、どのような取組の強化・内容の充実が必要だと思いますか。ア～カのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・『必要』（「必要」＋「どちらかといえば必要」）と答えた割合は、全ての項目で7割以上であった。
- ・全6項目中、『必要』と答えた割合が最も高かったのは、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」の90.9%で、次いで「環境学習の推進及び情報発信」が90.3%、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」が89.6%であった。

【性別】

- ・全6項目中5項目で男性より女性のほうが『必要』と答えた割合が高く、最も高くなったのは「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」と「環境学習の推進及び情報発信」で、いずれも96.6%であった。
- ・女性より男性の方が『必要』と答えた割合が高くなった項目は、「重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」の84.2%であった。

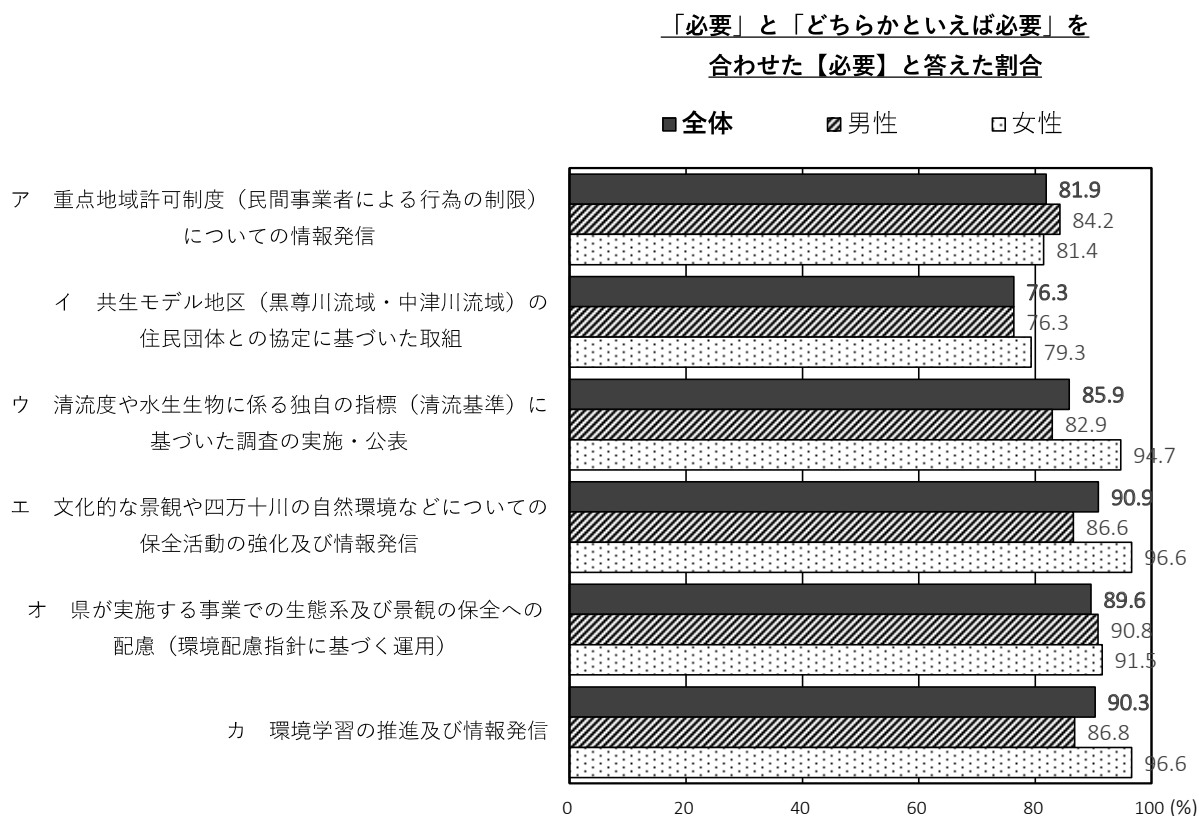
【年齢別】

- ・10歳代では6項目全て『必要』と答えた割合が100.0%で、20歳代も6項目中4項目で『必要』と答えた割合が100.0%となった。
- ・70歳代では「清流度や水生生物に係る独自の指標（清流基準）に基づいた調査の実施・公表」「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」「環境学習の推進及び情報発信」において『必要』と答えた割合が9割以上と高くなった。
- ・80歳代以上では「重点地域許可制度（民間事業者による行為の制限）についての情報発信」において『必要』と答えた割合が100.0%で、その他の項目は0.0%であった。

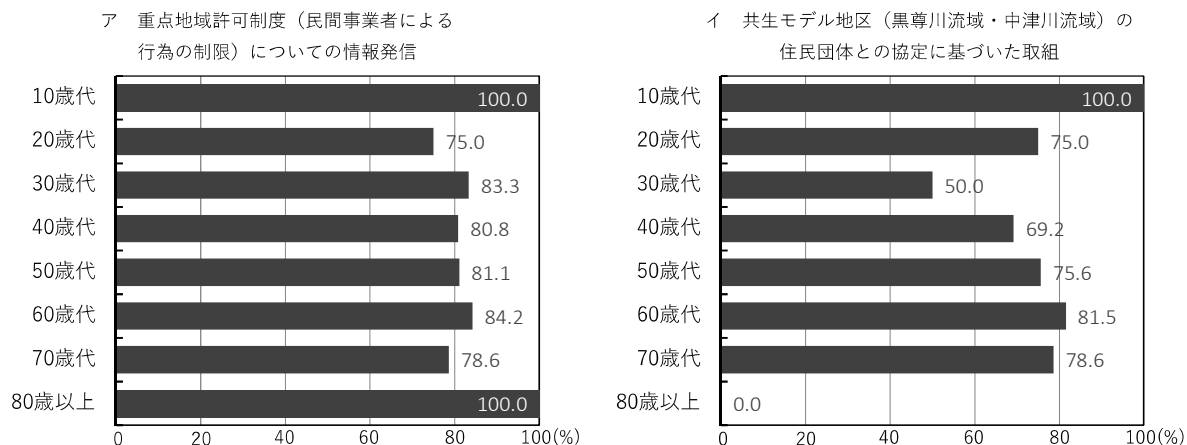
【居住地域別】

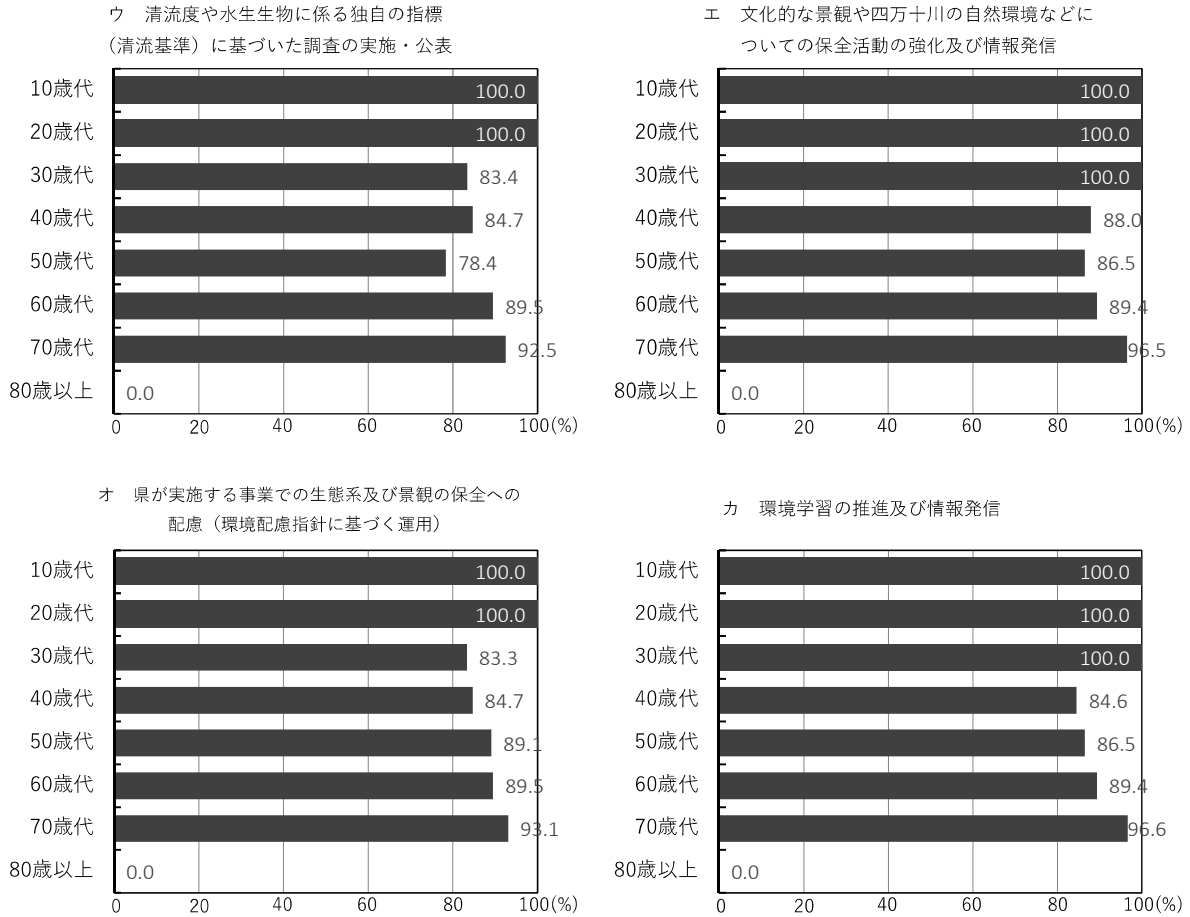
- ・上流域で『必要』と答えた人の割合が高くなったのは、「県が実施する事業での生態系及び景観の保全への配慮（環境配慮指針に基づく運用）」「環境学習の推進及び情報発信」であり、いずれも93.8%であった。
- ・中流域で『必要』と答えた人の割合が高くなったのは、「環境学習の推進及び情報発信」の93.0%であった。
- ・下流域で『必要』と答えた人の割合が高くなったのは、「文化的な景観や四万十川の自然環境などについての保全活動の強化及び情報発信」の92.6%であった。

図表 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組 <全体+性別>

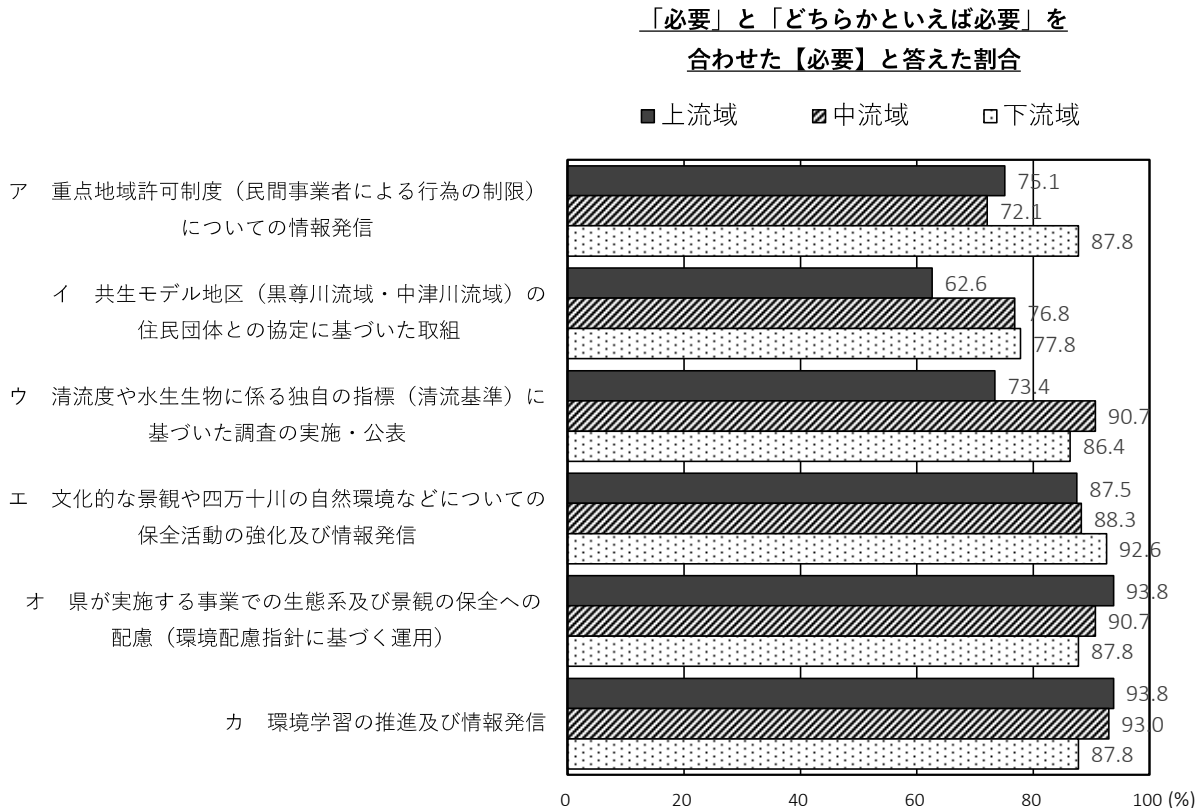


図表 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組 <年齢別>





図表 四万十川流域の保全と振興のために必要な取組 <居住地域別>



2. 四万十川との関わり

(1) 川に出かけたこと

問6 あなたは、この1年間に仕事以外で川にでかけたことがありますか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、55.7%（前回：47.9%・前々回：53.8%）と前回調査から7.8ポイント増加し、直近3回の調査の中で最も高くなった。

【性別】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、男性が65.0%（前回：54.8%・前々回：61.3%）で、女性が48.8%（前回：42.6%・前々回：47.5%）と男女ともに直近3回の調査の中で最も高くなった。また、女性より男性の方が川に出かける人の割合が2割程度高くなった。

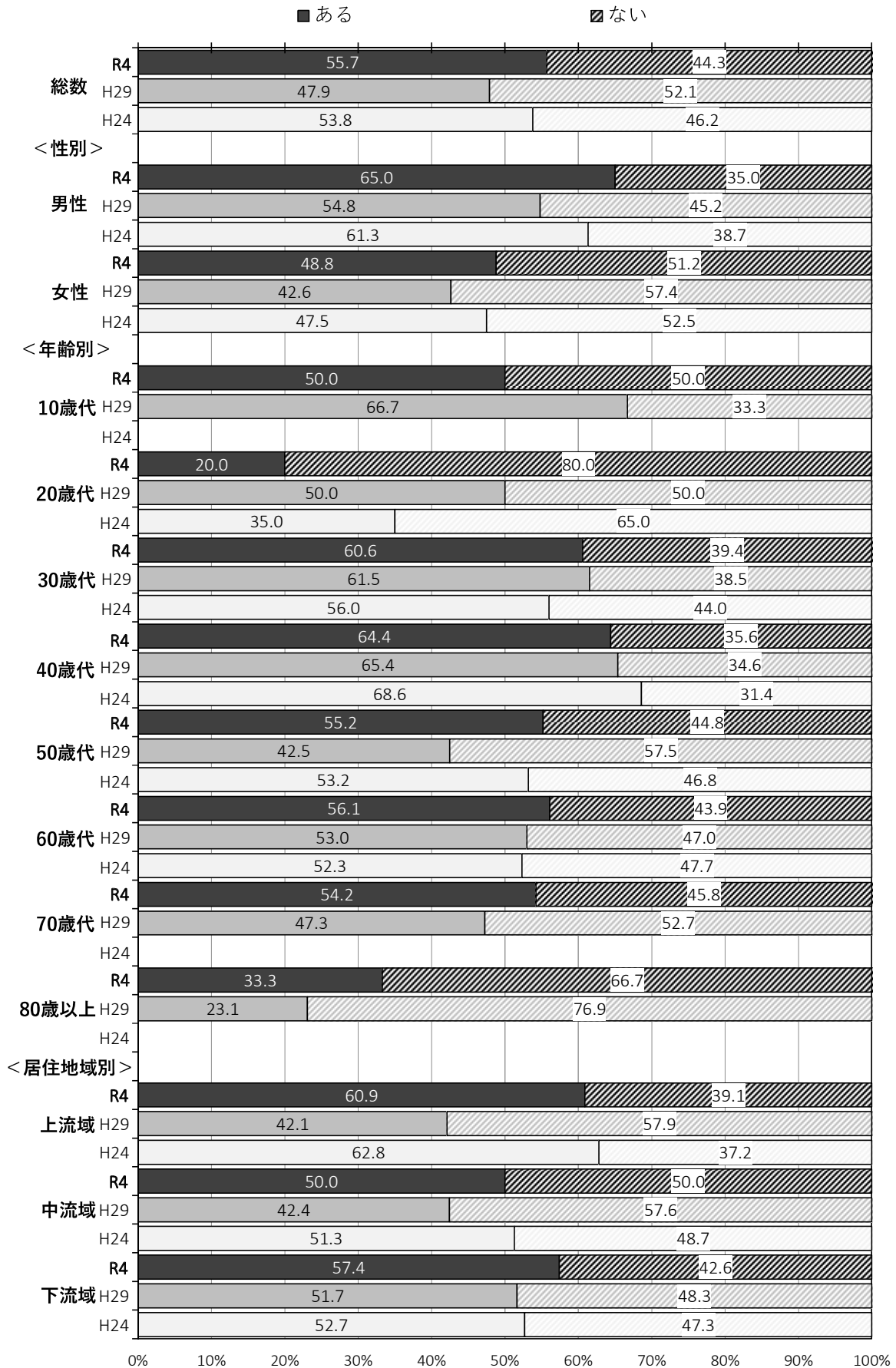
【年齢別】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合が最も高いのは40歳代の64.4%（前回：65.4%・前々回：68.6%）で、直近3回の調査の中で最も低くなった。
- ・「ある」と答えた人の割合が最も低いのは20歳代の20.0%（前回：50.0%・前々回：35.0%）で前回調査から30.0ポイント減少し、直近3回の調査の中で最も低くなった。
- ・50歳代以上の年代では川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合がそれぞれ直近3回の調査の中で最も高くなった。

【居住地域別】

- ・川に出かけたことが「ある」と答えた人の割合は、全ての流域で前回調査より増加し、上流域では60.9%（前回：42.1%・18.8ポイント増加）と最も高く、下流域では57.4%（前回：51.7%・前々回：52.7%）と直近3回の調査の中で最も高くなった。

図表 川に出かけたこと



(2) 川に出かけなかった理由

問6で「ない」と答えた方にお聞きします。

問7 問6で「ない」と答えた理由を選んでください。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「時間がない」と答えた人の割合は53.6%（前回：38.3%・15.3ポイント増加）が最も高く、次いで「興味がない」が39.2%（前回：39.2%）となった。

【性別】

- ・男女ともに「時間がない」と答えた人の割合は5割以上と最も高くなった。
- ・「興味がない」と答えた人の割合は、男性が49.3%（前回：48.0%・1.3ポイント増加）、女性が34.4%（前回：32.6%・1.8ポイント増加）と、男性が高くなった。

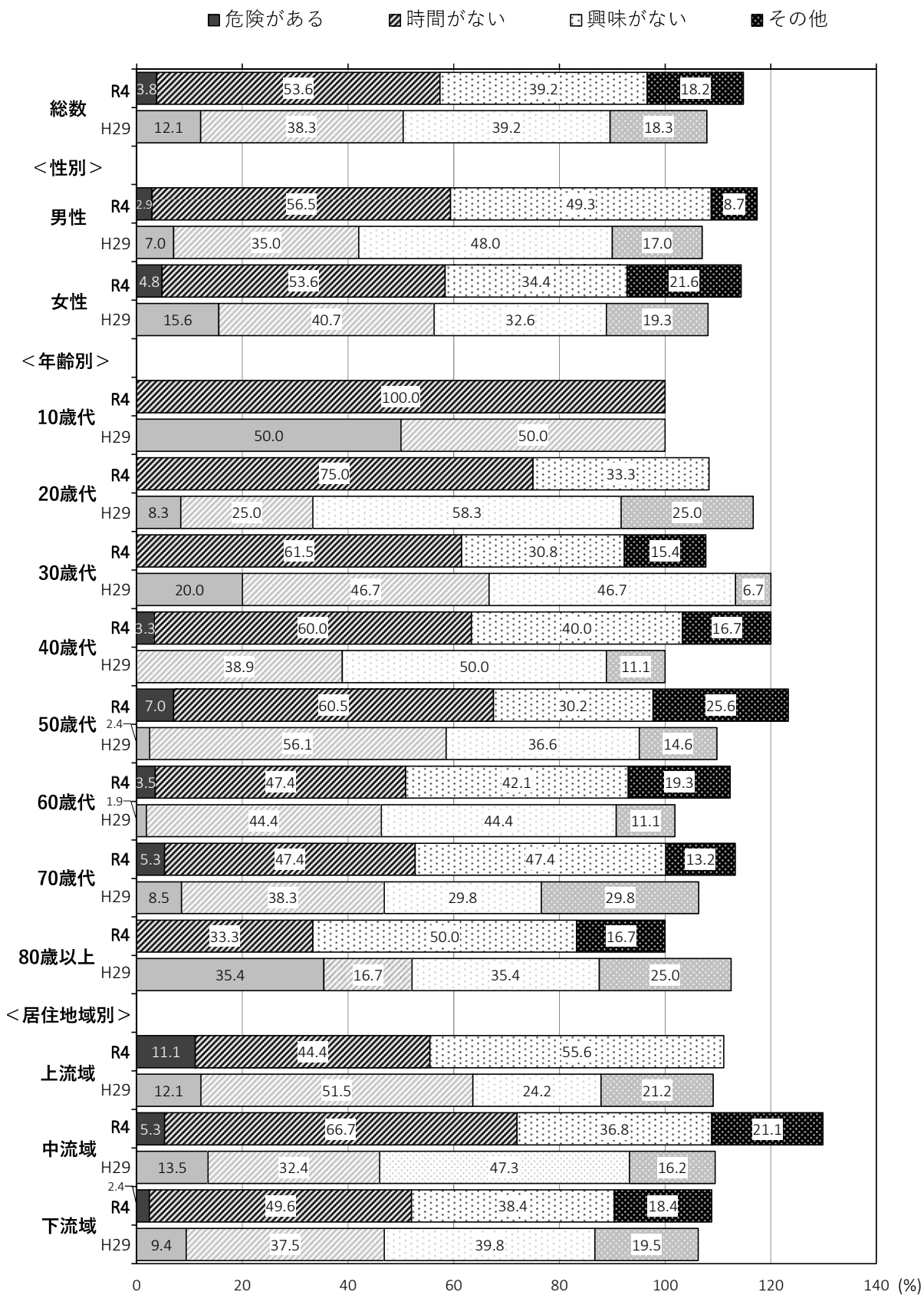
【年齢別】

- ・全ての年代で上位を占めた理由は「時間がない」と「興味がない」であった。
- ・「時間がない」と答えた人の割合が最も高くなったのは10歳代の100.0%（前回：50.0%・50.0ポイント増加）で、次いで20歳代が75.0%（前回：25.0%・50.0ポイント増加）であった。
- ・「興味がない」の割合が最も高くなったのは80歳以上の50.0%（前回：35.4%・14.6ポイント増加）であった。

【居住地域別】

- ・全ての流域で上位を占めた理由は「時間がない」と「興味がない」で、特に中流域では「時間がない」が66.7%（前回：32.4%・34.3ポイント増加）、上流域では「興味がない」が55.6%（前回：24.2%・31.4ポイント増加）と、その他の流域より高くなった。

図表 川に出かけなかった理由



(3) 川に出かけた頻度

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問8 あなたは、この1年間にどれくらい川にでかけましたか。(1つだけ○印)

- ・「年1～2回くらい」と答えた人の割合が37.4%（前回：43.1%）で最も高く、次いで「月1～2回くらい」が24.5%で、「2～3か月に1回くらい」が24.2%であった。
- ・「月1～2回くらい」の24.5%と「週1～2回くらい」の10.6%と「毎日、ほぼ毎日」の3.4%を合わせると38.5%（前回：34.2%・前々回：44.0%）が『月に1～2回くらい』以上（「毎日、ほぼ毎日」+「週1～2回くらい」+「月1～2回くらい」）は川に出かけており、前回調査から4.3ポイント増加したが、前々回より5.5ポイント減少した。

【性別】

- ・『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合は、男性が44.2%（前回：43.7%・前々回：53.9%）で、女性が32.7%（前回：24.5%・前々回：33.7%）であり、いずれも前回調査より増加したが、前々回より減少した。
- ・また、「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は、男性が6.1%（前回：7.6%・前々回：7.0%）、女性が0.8%（前回：2.9%・前々回：6.0%）と、男女ともに減少し、女性の方が毎日川に行く頻度が減少した。

【年齢別】

- ・『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合は、70歳代が51.1%（前回：45.2%・5.9ポイント増加）で最も高くなった。
- ・80歳以上では0.0%（前回：53.3%）であった。
- ・「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は60歳代が8.2%（前回：3.3%・4.9ポイント増加）と最も高くなった。

【居住地域別】

- ・上流域では、『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合が59.2%（前回：37.5%・前々回：42.9%）と直近3回の調査で割合が最も高くなったものの、「毎日、ほぼ毎日」と答えた人の割合は0.0%（前回：0.0%・前々回：4.1%）であった。
- ・中流域と下流域では『月に1～2回くらい』以上と答えた人の割合はいずれも4割以下であった。

図表 川に出かけた頻度



(4) 川で何をしたか

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問9 あなたは、この1年間に川で、何をしましたか。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は56.4%と最も高く、次いで「水泳、水遊び」33.3%であった。

【性別】

- ・男女ともに「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は5割以上を占めており、特に女性では63.0%と高くなった。

【年齢別】

- ・30歳代～40歳代を除いた全ての年代で「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は5割以上を占めており、特に10歳代～20歳代では100.0%と最も高くなった。
- ・30歳代～40歳代では、「水泳、水遊び」が6割以上と最も高くなった。

【居住地域別】

- ・いずれの地域も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合は5割以上を占めており、特に下流域では60.4%と高くなった。

【川に出かけた頻度別】

- ・いずれの頻度も「散歩、ジョギング、散策」と答えた人の割合が最も高く、特に毎日、ほぼ毎日では88.9%と最も高くなった。
- ・「アユ以外の釣り、魚とり」「アユ釣り、アユとり」と答えた人は、「週に1～2回以上」川に出かけていた。

図表 川で何をしたか

単位=(%) 網掛け=		散歩、ジョギング、散策	水泳、水遊び	清掃活動などのボランティア活動	アコ以外の釣り、魚とり	キャンプ、バーベキュー	その他	野草摘み(花摘み、山菜採りなど)	アコ釣り、アユ釣り	ボート、カヌーなど
1位										
2位										
全体		56.4	33.3	17.0	14.4	11.7	11.7	10.2	9.1	5.3
性別	男性	50.8	35.4	16.2	21.5	12.3	10.8	3.1	16.2	8.5
	女性	63.0	31.9	17.6	5.9	11.8	12.6	16.8	2.5	0.8
年齢別	10歳代	100.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-
	20歳代	100.0	66.7	-	-	33.3	-	-	-	33.3
	30歳代	30.0	60.0	-	25.0	25.0	10.0	5.0	-	-
	40歳代	55.2	60.3	10.3	15.5	20.7	6.9	5.2	1.7	15.5
	50歳代	60.8	21.6	11.8	19.6	15.7	23.5	5.9	13.7	3.9
	60歳代	57.5	23.3	27.4	9.6	4.1	12.3	5.5	17.8	2.7
	70歳代	57.8	15.6	24.4	13.3	4.4	6.7	31.1	6.7	-
	80歳以上	66.7	33.3	-	-	-	-	-	-	-
居住地別	上流域	51.9	40.7	33.3	22.2	3.7	7.4	22.2	7.4	3.7
	中流域	50.0	29.3	34.5	13.8	10.3	10.3	6.9	15.5	6.9
	下流域	60.4	33.7	7.7	13.6	13.6	13.6	8.3	7.7	4.7
川に出かけた頻度別	毎日、ほぼ毎日	88.9	-	11.1	33.3	-	22.2	22.2	22.2	11.1
	週1~2回くらい	57.1	32.1	14.3	25.0	7.1	7.1	21.4	32.1	10.7
	月1~2回くらい	73.0	31.7	14.3	12.7	20.6	15.9	14.3	9.5	3.2
	2~3か月に1回くらい	62.5	37.5	25.0	18.8	15.6	10.9	6.3	1.6	6.3
	年1~2回くらい	39.4	35.4	15.2	8.1	6.1	9.1	6.1	6.1	4.0

(5) 四万十川の環境や景観の変化★

問6で「ある」と答えた方にお聞きします。

問10 あなたは、四万十川の環境や景観等について、以前に比べて変化があったと思いますか。ア～キのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・全7項目中、『良くなった』（「良くなった」＋「どちらかといえばよく良くなった」）が『悪くなった』（「悪くなった」＋「どちらかといえば悪くなった」）を上回ったものは、「季節ごとの優れた景観を有している」の1項目のみで、『良くなった』と答えた人の割合は31.1%であった。
- ・『悪くなった』と答えた人の割合が最も高くなったのは「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.2%で、次いで「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」が43.1%、「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」が35.0%であった。

【性別】

- ・全7項目全ての項目で女性のほうが男性より『良くなった』と答えた人の割合が高く、特に「季節ごとの優れた景観を有している」は『良くなった』と答えた女性の割合は37.3%と、男性の割合の26.5%と10.8ポイントの差が生じた。
- ・『悪くなった』と答えた人の割合が最も高くなったのは、男性が「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」の43.7%で、女性は「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」の42.7%であった。

【年齢別】

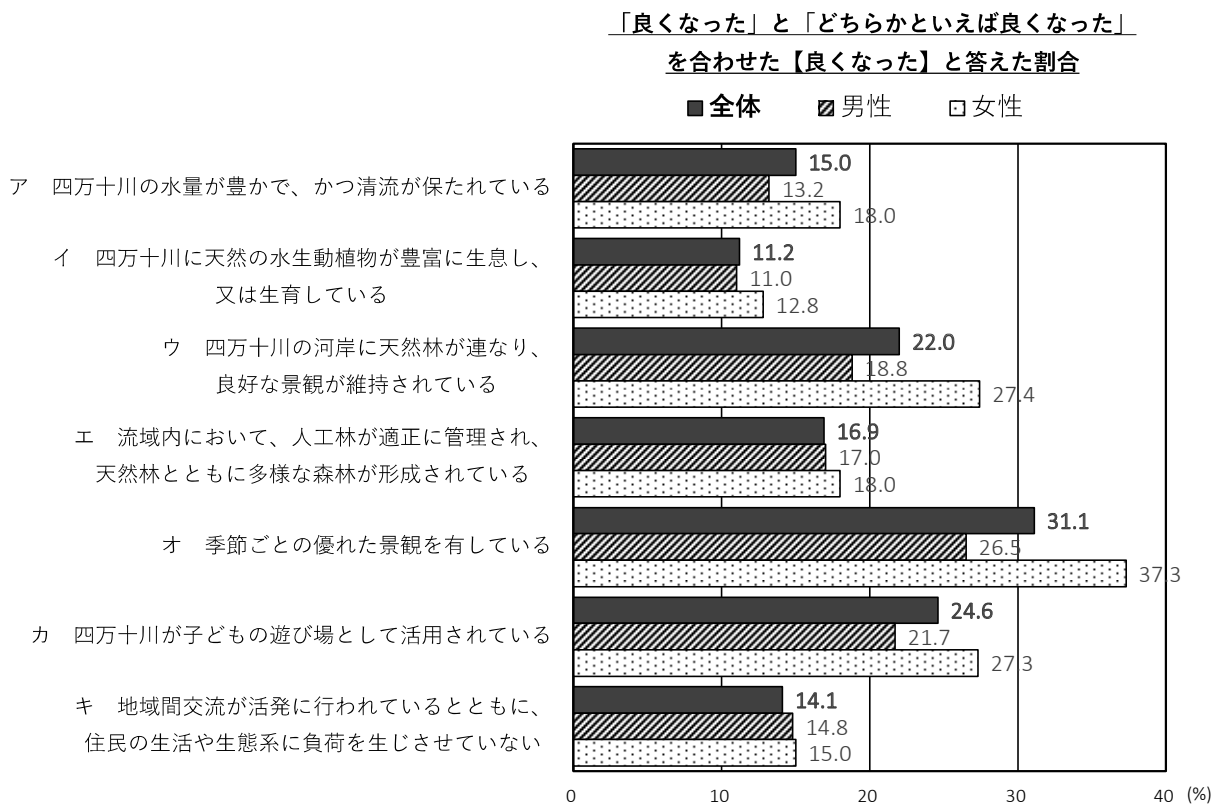
- ・全ての年代で「季節ごとの優れた景観を有している」と答えた人の割合は『良くなった』が『悪くなった』を上回った。
- ・50～70歳代では「季節ごとの優れた景観を有している」以外の全ての項目で『悪くなった』が『良くなった』を上回った。
- ・60～70歳代では、「四万十川に天然の水生動植物が豊富に生息し、又は生育している」「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」は『悪くなった』と答えた人の割合が5割以上と最も高くなった。

【居住地域別】

- ・上流域で『良くなった』と答えた人の割合が『悪くなった』を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」（33.3ポイント差）、「四万十川が子どもの遊び場として活用されている」（22.2ポイント差）及び「地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない」（7.4ポイント差）の3項目であった。
- ・中流域及び下流域で『良くなった』と答えた人の割合が『悪くなった』を上回ったのは、「季節ごとの優れた景観を有している」（中流域：7.0ポイント差・下流域：18.1ポイント差）の1項目のみであった。

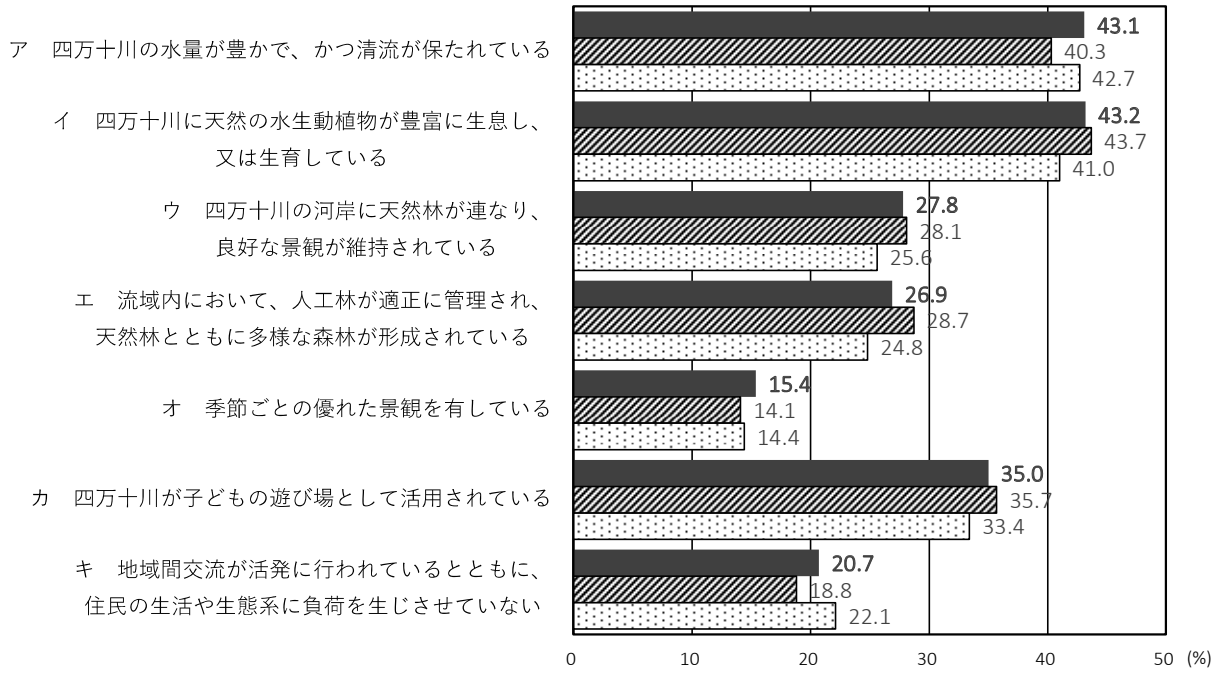
- ・全流域で『悪くなった』と答えた人の割合が『良くなった』を最も上回ったのは、「四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している」（上流域：29.6ポイント差・中流域：29.3ポイント差・下流域：33.3ポイント差）で、次いで上流域では「流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている」（25.9ポイント差）、中流域及び下流域では「四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている」（中流域：24.2ポイント差・下流域：29.6ポイント差）であった。

図表 四万十川的环境や景観の変化 <全体+性別>



「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」
を合わせた【悪くなった】と答えた割合

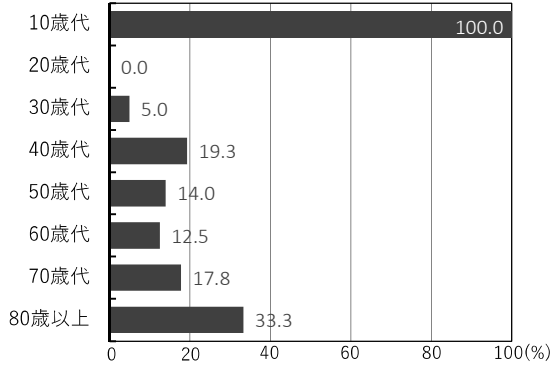
■全体 □男性 □女性



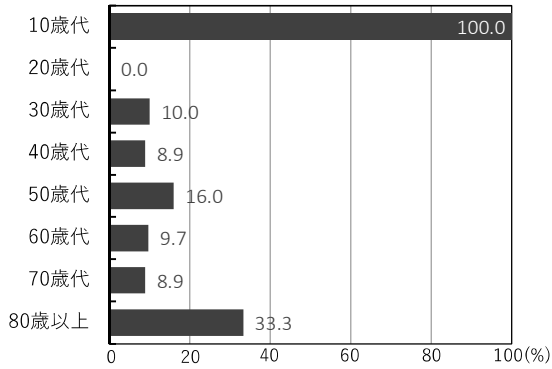
図表 四万十川の環境や景観の変化 <年齢別>

「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった】と答えた割合

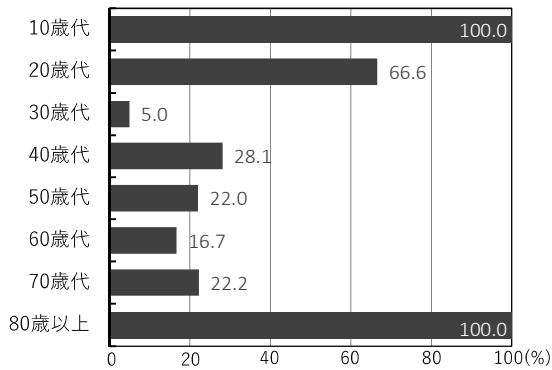
ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている



イ 四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している

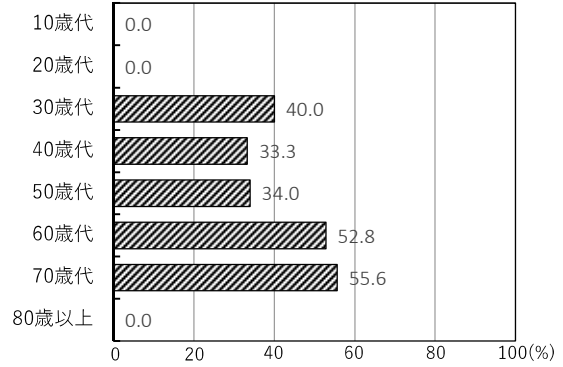


ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている

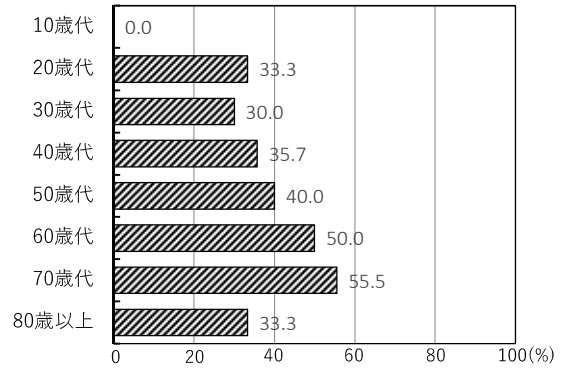


「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」を合わせた【悪くなった】と答えた割合

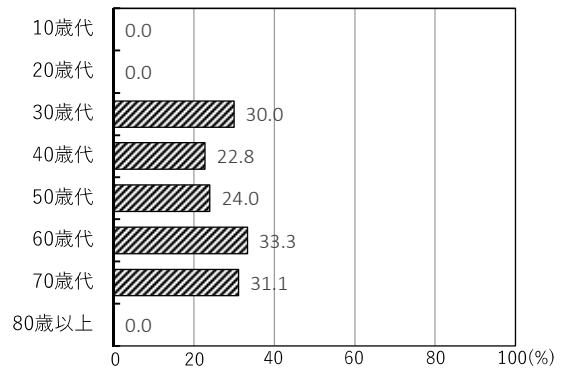
ア 四万十川の水量が豊かで、かつ清流が保たれている



イ 四万十川に天然の水生动植物が豊富に生息し、又は生育している

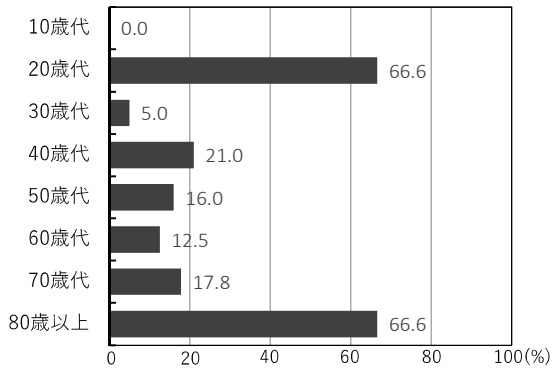


ウ 四万十川の河岸に天然林が連なり、良好な景観が維持されている

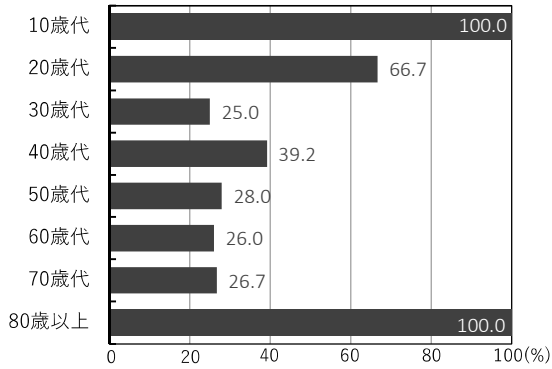


「良くなった」と「どちらかといえば良くなった」を合わせた【良くなった】と答えた割合

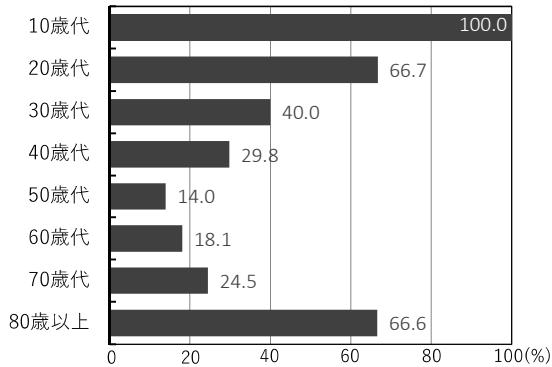
エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている



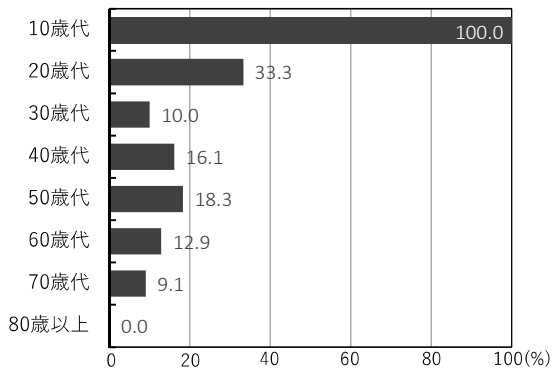
オ 季節ごとの優れた景観を有している



カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている

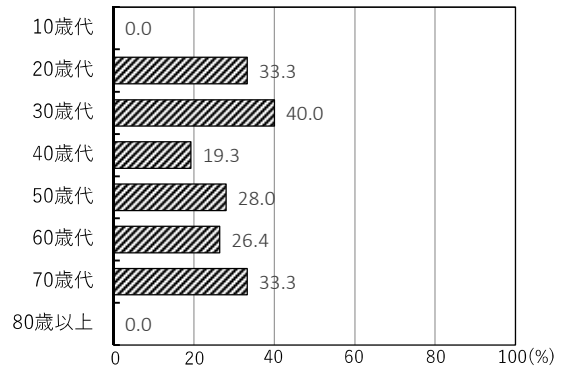


キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない

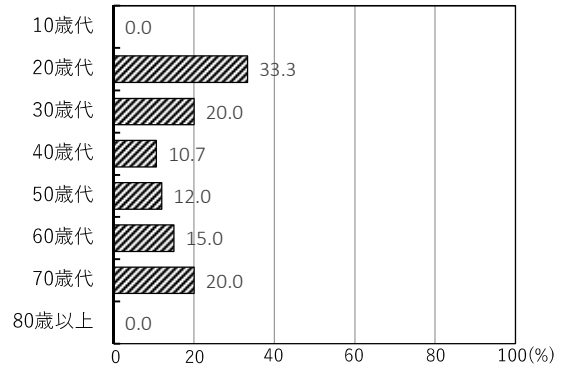


「悪くなった」と「どちらかといえば悪くなった」を合わせた【悪くなった】と答えた割合

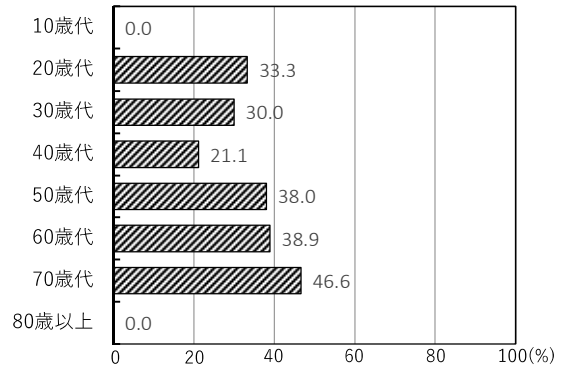
エ 流域内において、人工林が適正に管理され、天然林とともに多様な森林が形成されている



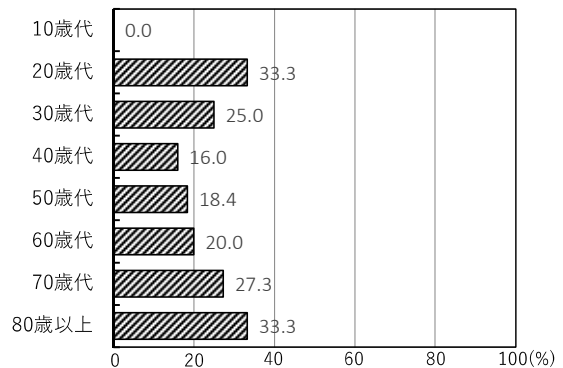
オ 季節ごとの優れた景観を有している



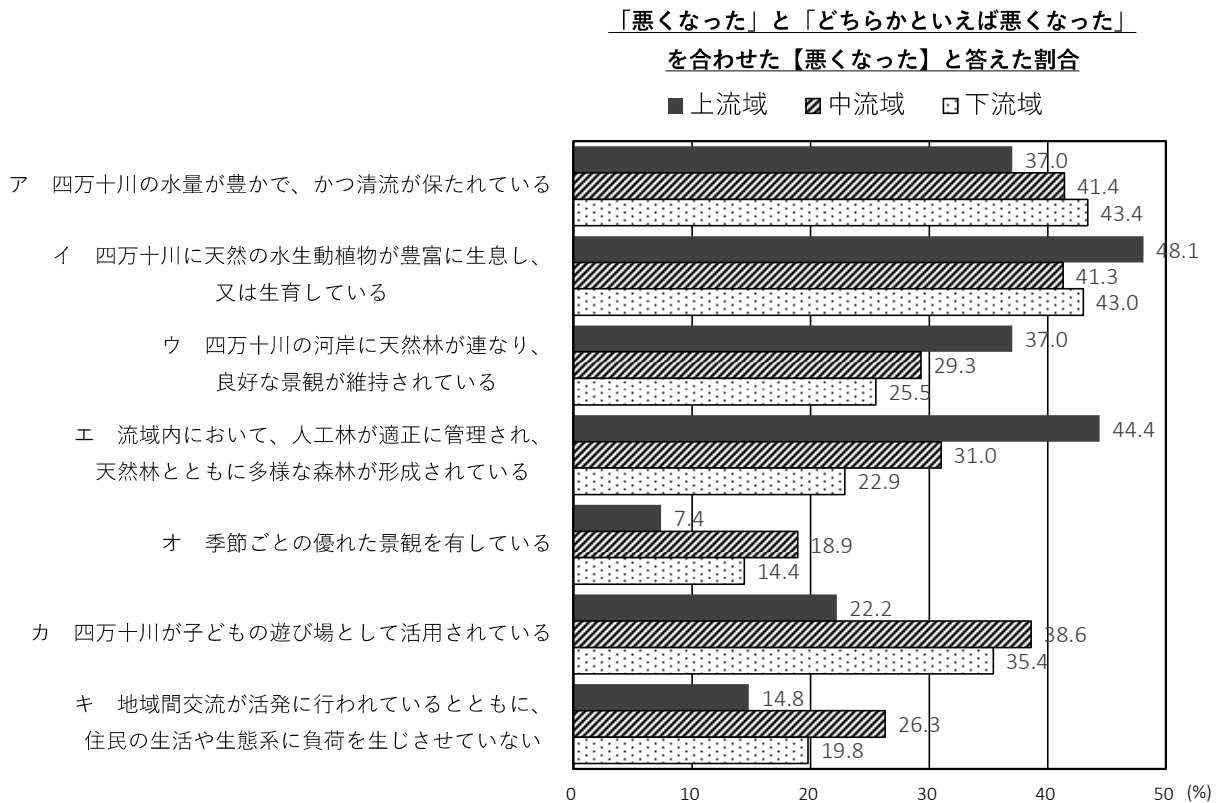
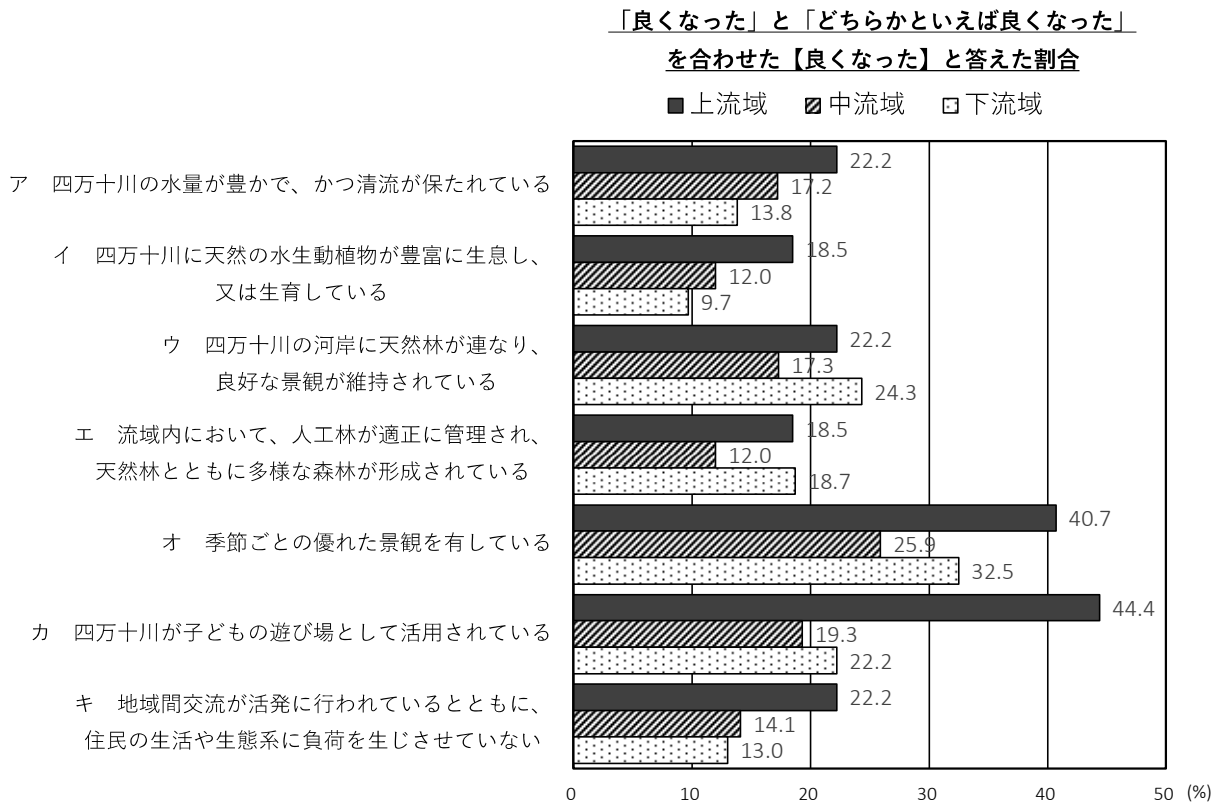
カ 四万十川が子どもの遊び場として活用されている



キ 地域間交流が活発に行われているとともに、住民の生活や生態系に負荷を生じさせていない



図表 四万十川の環境や景観の変化 <居住地域別>



3. 環境を守る行動や意欲

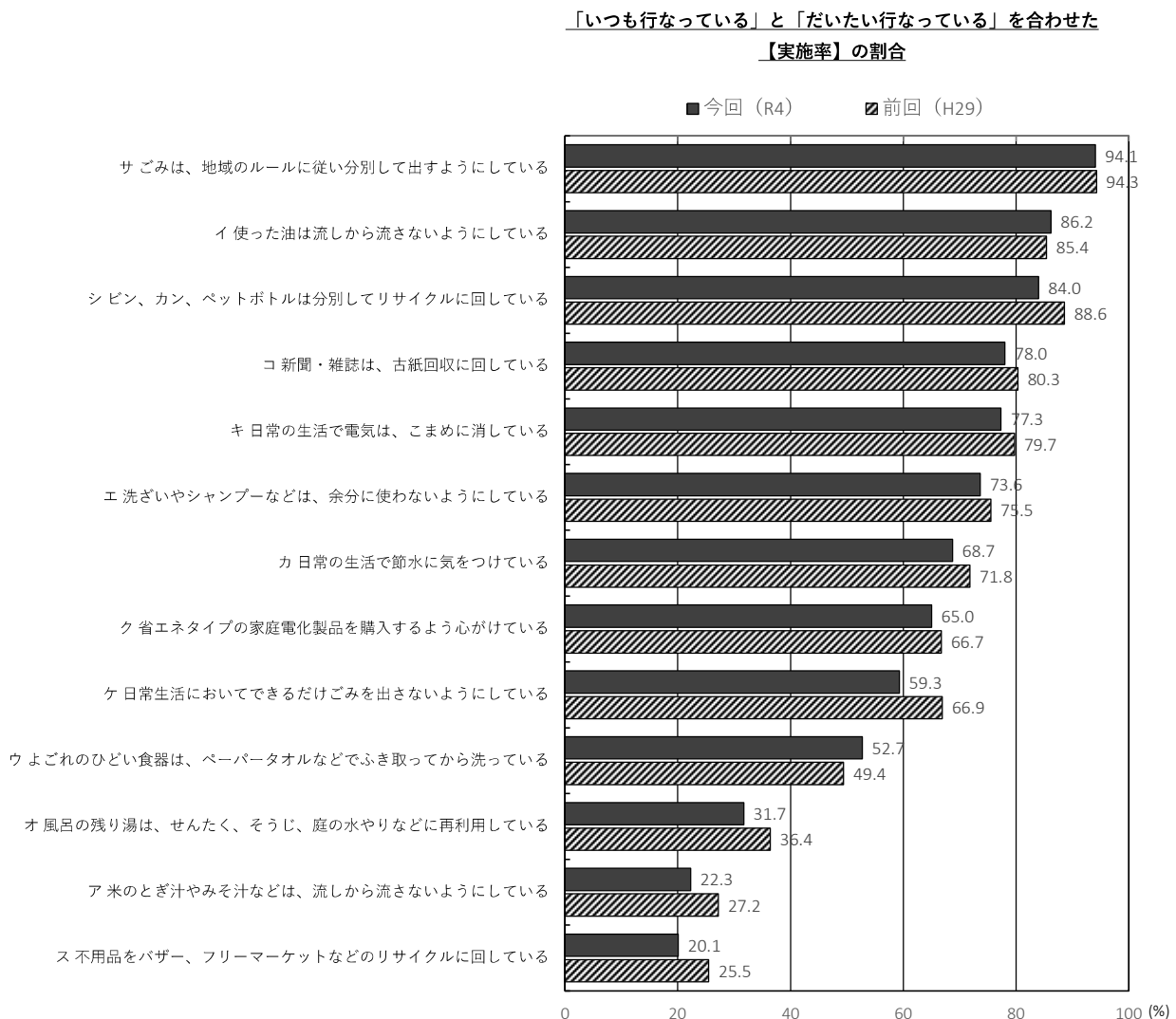
(1) 環境を守る行動

問11 あなたは、次のことがらについて、日頃どの程度行なっていますか。ア～スのそれぞれについて、あてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・13項目中11項目において、前回調査よりも『実施率』（「いつも行っている」+「だいたい行っている」）が減少した。
- ・『実施率』の高い順に並べた項目ごとの順位は、第1位は変わらず「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」94.1%（前回：94.3%・0.2ポイント減少）であったが、第2位が「使った油は流しから流さないようにしている」86.2%で、前回調査の第3位から0.8ポイント増加した。
- ・前回調査と比べて、「よごれのひどい食器は、ペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」52.7%が3.3ポイントと最も増加した一方で、「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」59.3%が7.6ポイントと最も減少した。

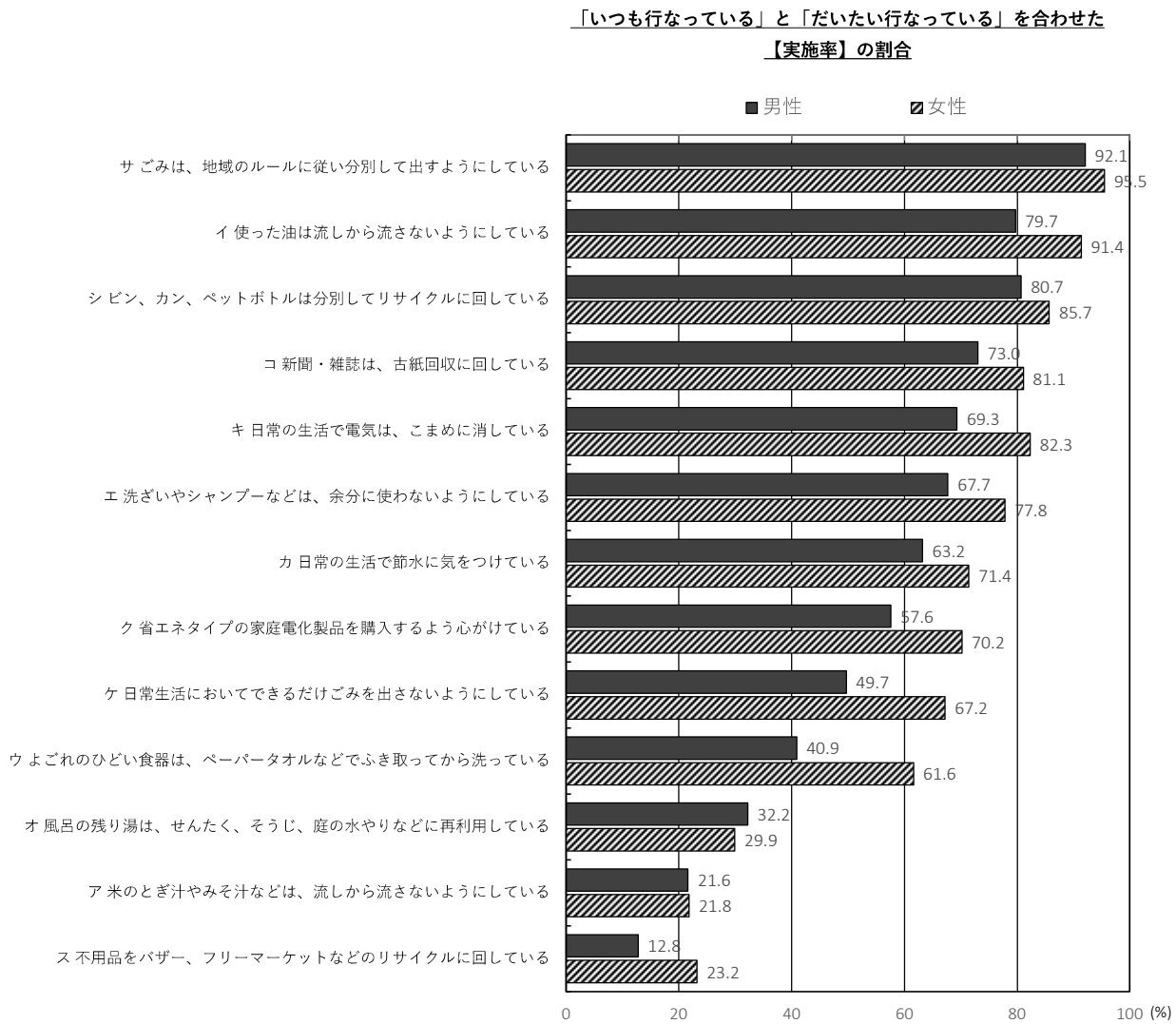
図表 環境を守る行動 <前回調査との比較>



【性別】

- ・13項目中12項目において、男性より女性の方が『実施率』が高くなった。
- ・男女とも、「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」（男性：92.1%・女性：95.5%）の『実施率』が最も高く、自治体ごとのごみ分別ルールが浸透している様子がうかがえる。また、女性は「使った油は流しから流さないようにしている」91.4%も高くなった。
- ・男女とも、「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」（男性：12.8%・女性：23.2%）「米のとき汁やみそ汁などは流しから流さないようにしている」（男性：21.6%・女性：21.8%）の『実施率』が低くなった。
- ・なお、前者のバザー、フリーマーケットについてはそれ自体が開催される機会が少ない可能性がある。

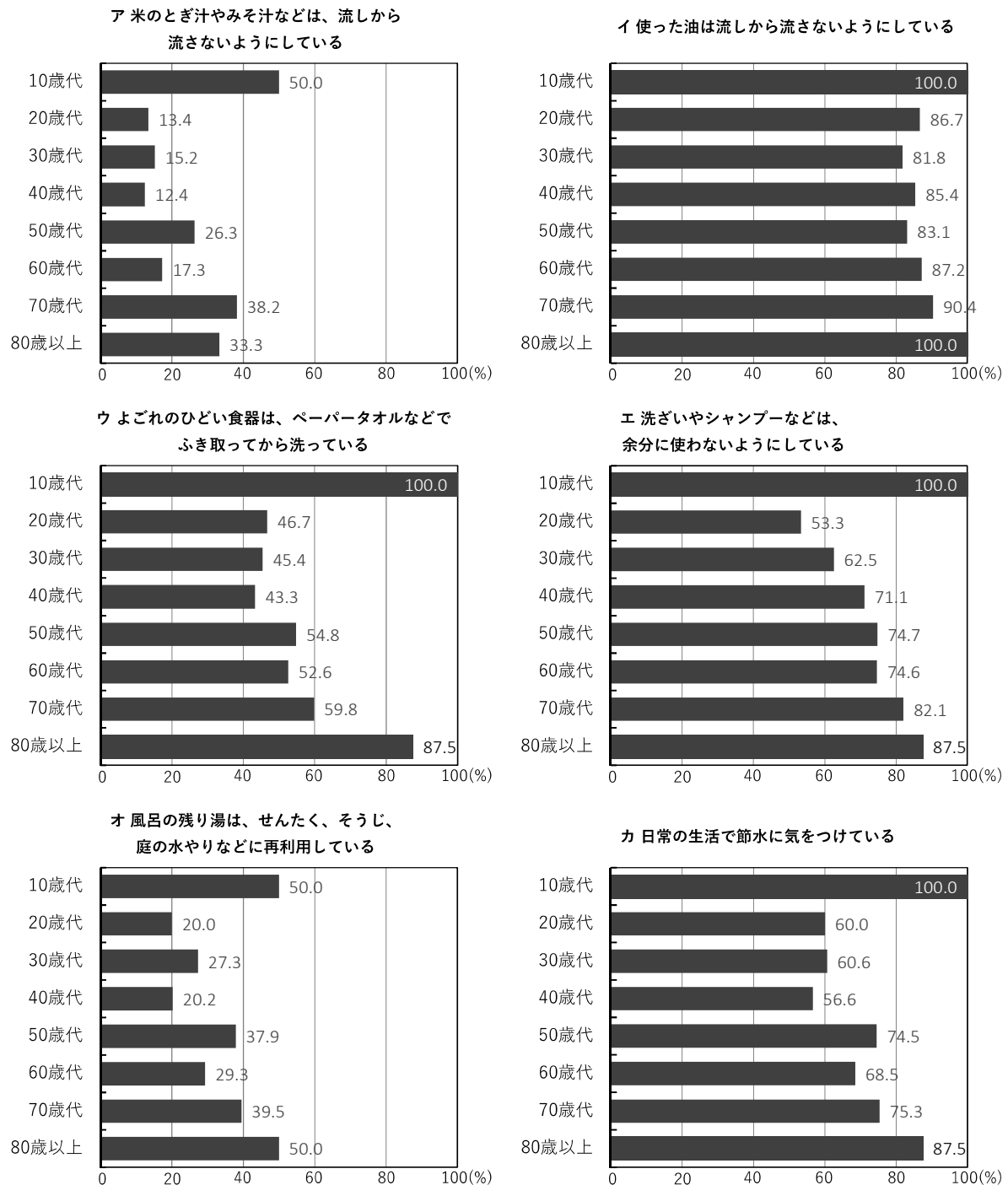
図表 環境を守る行動 <性別>



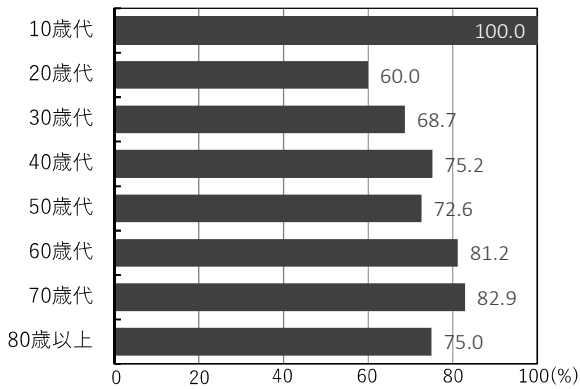
【年齢別】

- ・全ての年代において「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」が最も『実施率』が高くなった。また、20歳代と40歳代を除いた全ての年代で「ビン、カン、ペットボトルは分別してリサイクルに回している」の『実施率』が8割を超えていることから、地域ごとのごみ分別ルールが浸透している状況がうかがえる。
- ・ほとんどの項目において、50歳代～80歳以上の『実施率』が20歳代～40歳代に比べて高い傾向がみられた。

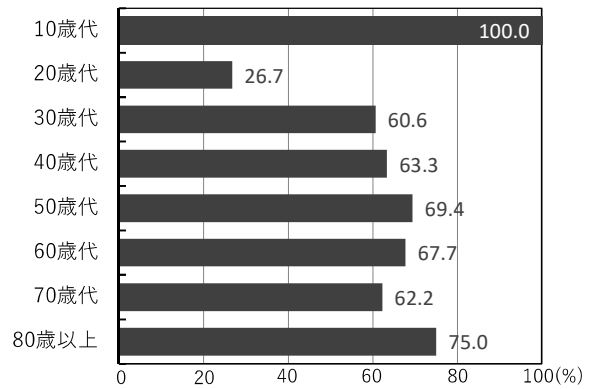
図表 環境を守る行動 <年齢別>



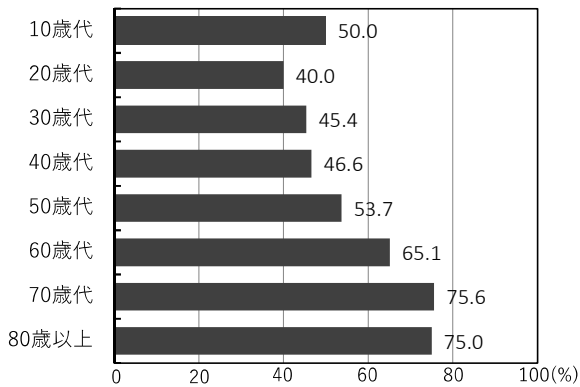
キ 日常の生活で電気は、こまめに消している



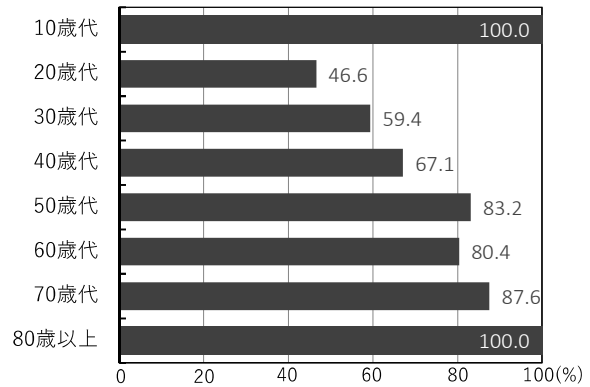
ク 省エネタイプの家庭電化製品を購入するよう心がけている



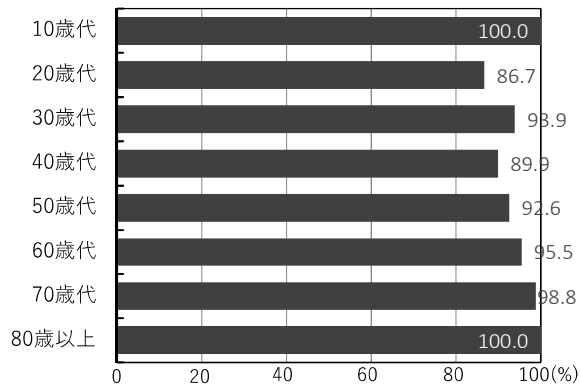
ケ 日常生活においてできるだけごみを
出さないようにしている



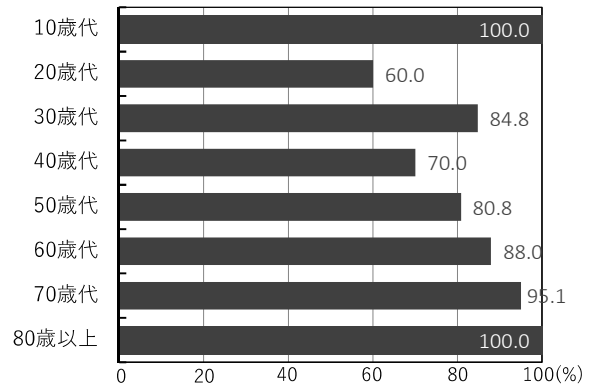
コ 新聞・雑誌は、古紙回収に回している



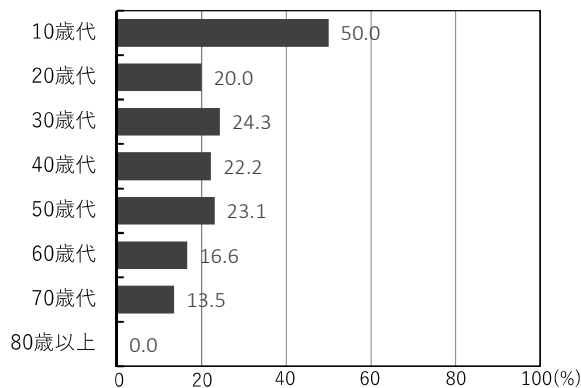
サ ごみは、地域のルールに従い分別して
出すようにしている



シ ビン、カン、ペットボトルは分別して
リサイクルに回している



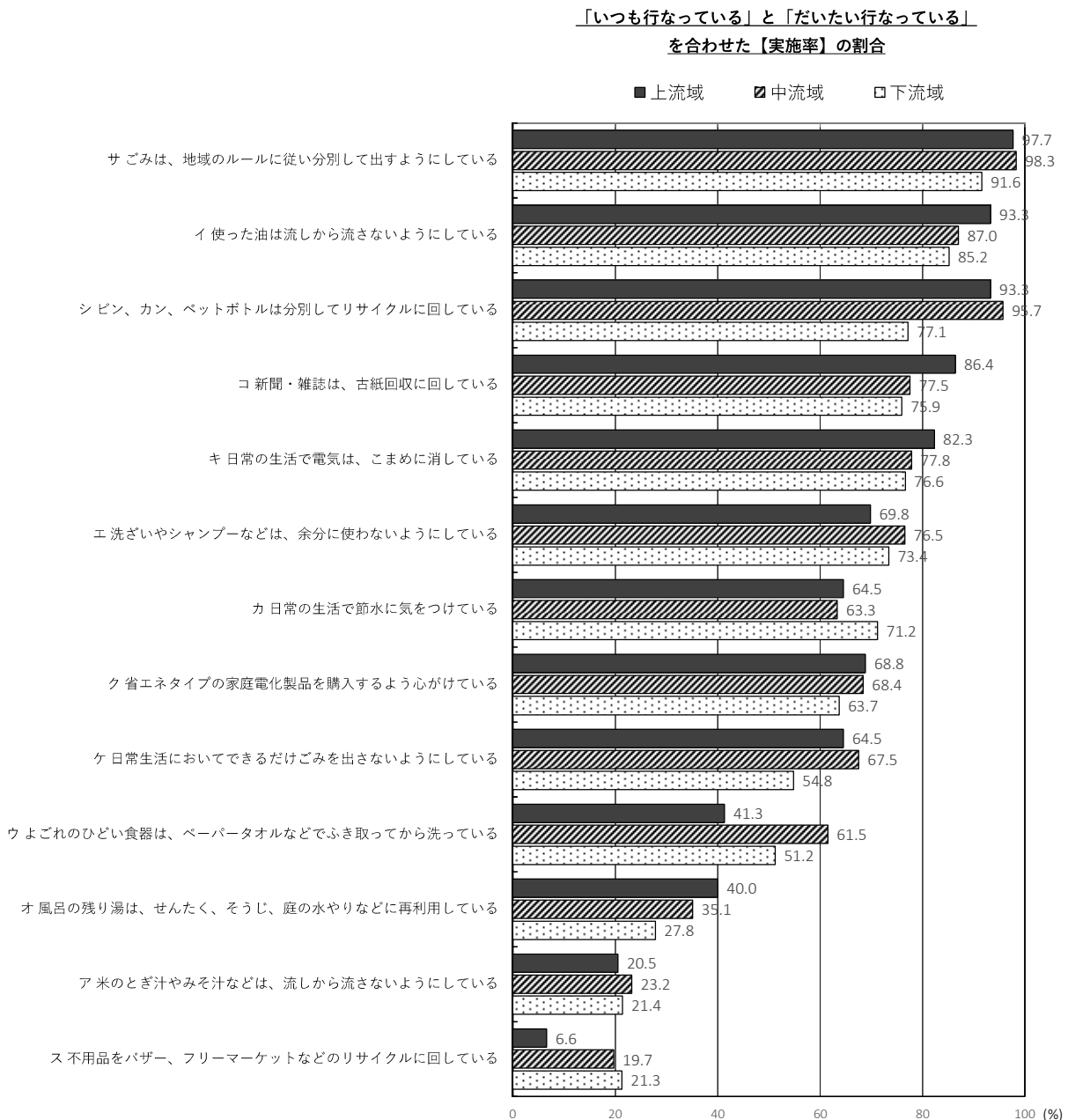
ス 不用品をバザー、フリーマーケットなどの
リサイクルに回している



【居住地域別】

- ・すべての流域において「ごみは、地域のルールに従い分別して出すようにしている」の『実施率』が最も高くなった。
- ・上流域では中流域及び下流域と比べて「よごれのひどい食器はペーパータオルなどでふき取ってから洗っている」と「不用品をバザー、フリーマーケットなどのリサイクルに回している」が特に『実施率』が低くなった。
- ・下流域では上流域及び中流域と比べて「日常生活においてできるだけごみを出さないようにしている」と「風呂の残り湯は、せんたく、そうじ、庭の水やりなどに再利用している」が特に『実施率』が低くなった。

図表 環境を守る行動 <居住地域別>



(2) 家庭での水切り袋などの設置

問 12 あなたのご家庭では、日頃、流しの排水口や三角コーナーで水切り袋などを使っていますか。
(水切り袋が不要なシステムキッチンなどの場合は1を選んでください。)(1つだけ○印)

【全体】

・「いつも使っている」と答えた人の割合は80.1%で、「まあ使っている」と答えた人の割合の8.2%と合わせた『使用率』(「いつも使っている」+「まあ使っている」)は88.3%(前回:77.1%)で11.2ポイント増加しており、水切り袋の設置等が浸透している状況がうかがえる。

【性別】

・「いつも使っている」と答えた人の割合は男女ともに前回調査から増加し、『使用率』は男性が86.6%(前回:77.6%・9.0ポイント増加)で、女性が89.2%(前回:77.4%・11.8ポイント増加)と男性より女性の方が僅かであるが『使用率』が高くなった。

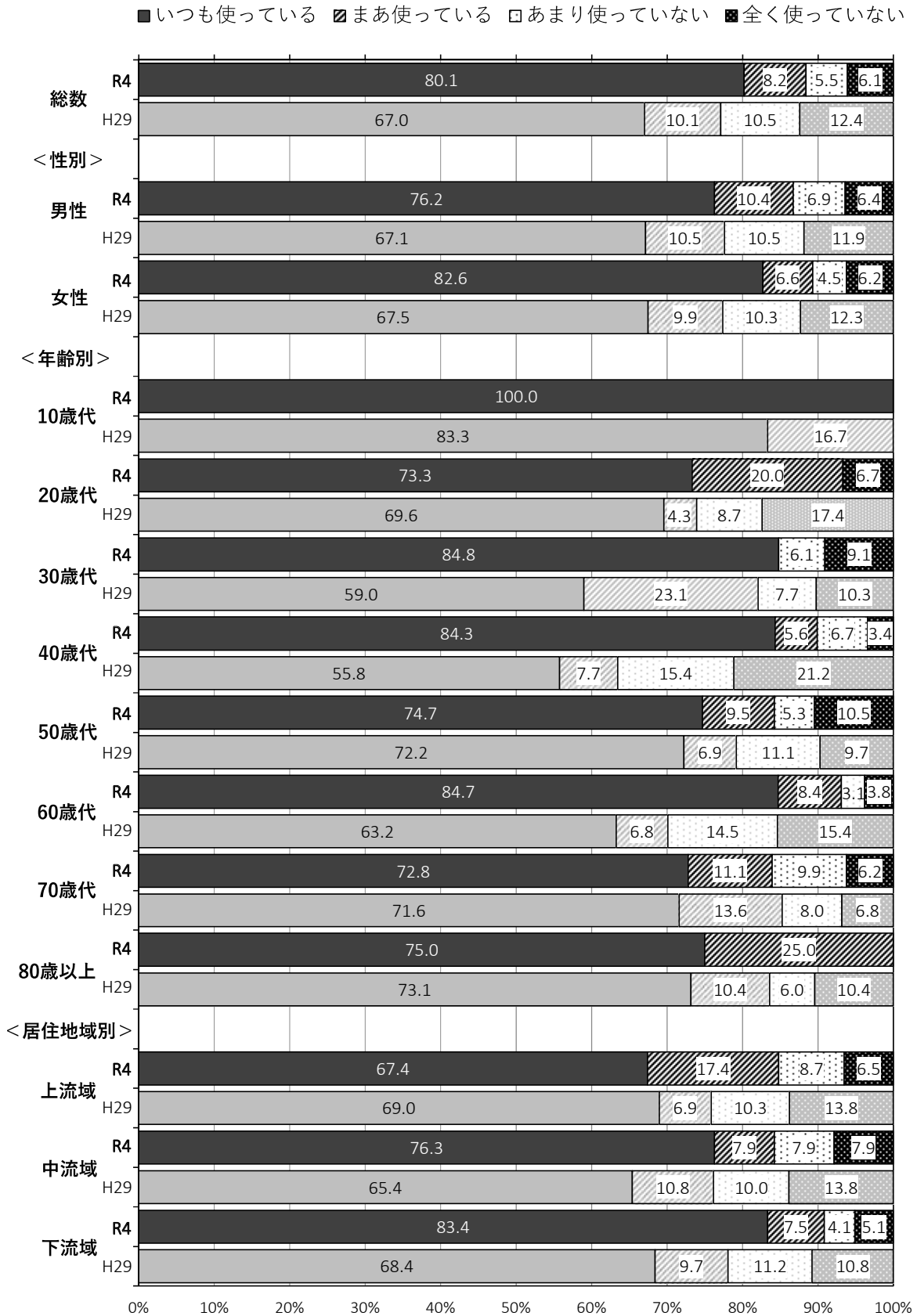
【年齢別】

・『使用率』が最も高くなったのは10歳代と80歳以上が100.0%で、70歳代を除いた全ての年代で『使用率』が増加した。

【居住地域別】

・『使用率』が最も高くなったのは下流域で、90.9%(前回:78.1%)と前回調査から12.8ポイントと増加した。

図表 家庭での水切り袋などの設置



(3) 家庭での生ごみのたい肥(ひ)化への取組

問 13 あなたのご家庭では、日頃、コンポスト容器や電気式の生ごみ処理機などを利用して、家庭から出る生ごみのたい肥(ひ)化に取り組んでいますか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・「いつもしている」と答えた人の割合は11.6%で、「まあしている」と答えた人の割合の7.4%と合わせた『実施率』（「いつもしている」＋「まあしている」）は19.0%（前回：33.9%）で前回調査から14.9ポイント減少した。

【性別】

- ・『実施率』は男性が14.5%（前回：34.0%・19.5ポイント減少）で、女性が21.9%（前回：34.2%・12.3ポイント減少）であり、男女ともに前回調査から10ポイント以上減少した。

【年齢別】

- ・『実施率』が最も高くなったのは70歳代の33.4%であった。
- ・30歳代を除いた全ての年代で『実施率』が減少しており、特に10歳代～20歳代と40歳代の『実施率』は1割以下と低くなった。

【居住地域別】

- ・「いつもしている」と答えた人の割合は上流域が29.8%（前回：25.9%）で、前回調査から3.9ポイント増加した。
- ・『実施率』は全ての流域で減少しているが、『実施率』が最も高くなったのは上流域の42.6%で、最も低くなった下流域の11.5%と比べると、31.1ポイントの差があった。

図表 家庭での生ごみのたい肥(ひ)化への取組



(4) 環境に関する活動への参加の有無

問 14 あなたは、講演会などの催しや、植樹、間伐(かんばつ)、リサイクル活動、美化・清掃活動など、環境に関する活動に参加したことがありますか。(1つだけ○印)

【全体】

・「ある」と答えた人の割合は、36.8%（前回：42.3%）と前回調査から5.5ポイント減少した。

【性別】

・「ある」と答えた人の割合は、男性が40.9%（前回：45.5%・4.6ポイント減少）で、女性は32.9%（前回：39.5%・6.6ポイント減少）といずれも前回調査から割合が減少した。

・前回調査と同様、「ある」と答えた人の割合は男性の方が高くなった。

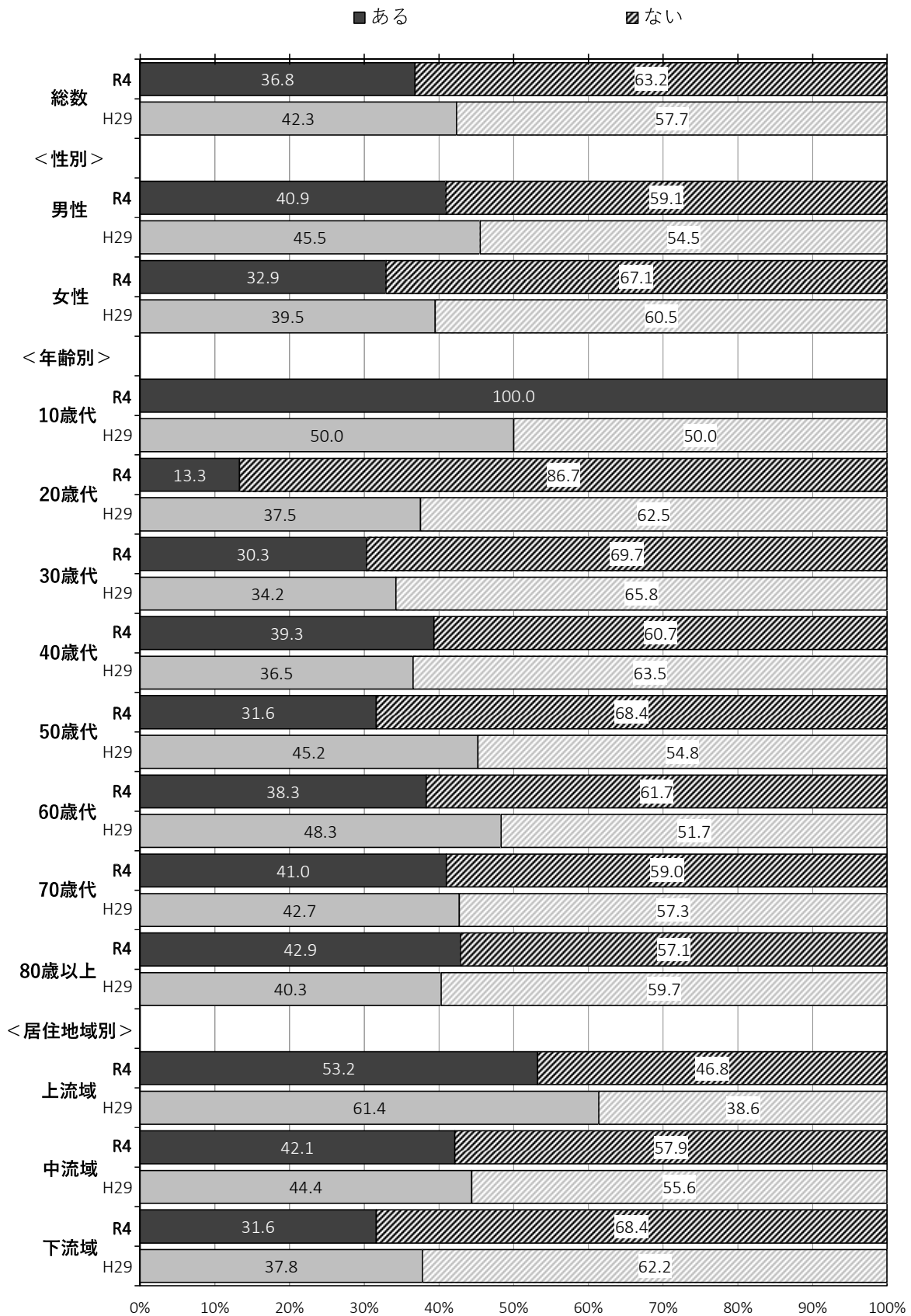
【年齢別】

・「ある」と答えた人の割合が最も高いのは10歳代で100.0%（前回：50.0%・50.0ポイント増加）、次いで80歳以上が42.9%（前回：40.3%・2.6ポイント増加）であった。一方で、「ある」と答えた人の割合が最も低いのは20歳代の13.3%（前回：37.5%）であり、前回調査から24.2ポイント減少した。

【居住地域別】

・前回調査と同様に上流域になるほど「ある」と答えた人の割合は高い傾向となり、上流域が53.2%（前回：61.4%・8.2ポイント減少）で最も高く、下流域が31.6%（前回：37.8%・6.2ポイント減少）で最も低く、全ての流域で前回調査より割合がやや減少した。

図表 環境に関する活動への参加の有無



(5) 環境に関する活動に参加しない理由

問 14 で「ない」と答えた方にお聞きます。

問 15 問 14 で「ない」と答えた理由をお選びください。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

- ・「時間がない」と答えた人の割合が 49.7% (前回：40.8%) と最も高く、前回調査から 8.9 ポイント増加し、次いで「活動自体を知らない」が 35.9% (前回：32.8%・3.1 ポイント減少)、「興味関心がない」が 20.0% (前回：23.7%・3.7 ポイント減少) であった。

【性別】

- ・男女ともに「時間がない」(男性：47.8%・女性：50.9%) と答えた人の割合が最も高く、次いで「活動自体を知らない」(男性：34.8%・女性：39.0%) で、いずれも女性の方が割合が高くなった。

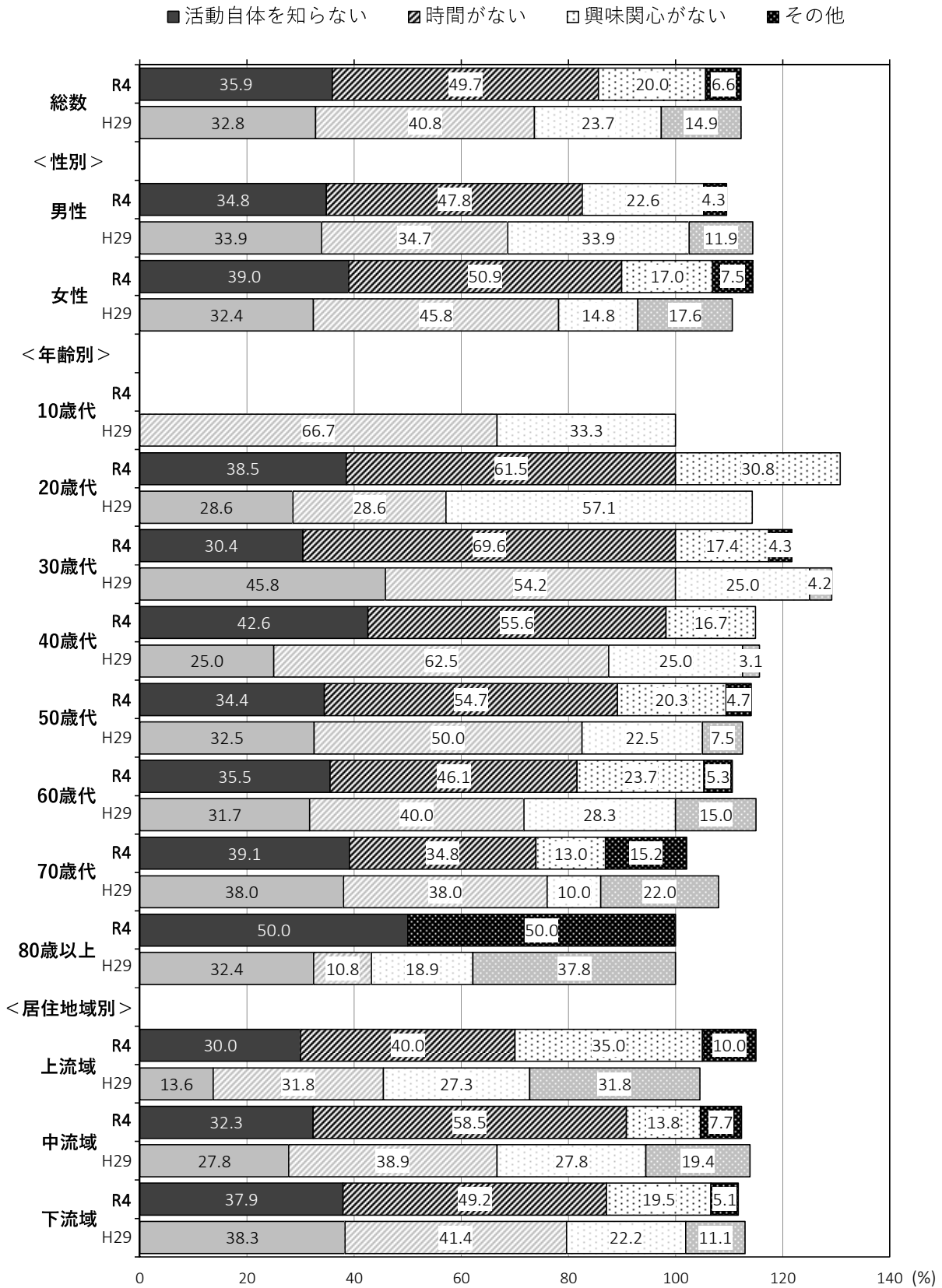
【年齢別】

- ・80 歳以上を除いた全ての年代で上位を占めた理由は「時間がない」と「活動自体を知らない」で、「時間がない」と答えた人の割合が最も高くなったのは 30 歳代で 69.6% (前回：54.2%・15.4 ポイント増加) で、「活動自体を知らない」と答えた人の割合が最も高くなったのは 80 歳以上で 50.0% (前回：32.4%・17.6 ポイント増加) であった。
- ・20 歳代では「興味関心がない」と答えた人の割合が 30.8% (前回：57.1%) で、前回調査より 26.3 ポイント減少したものの、その他の年代と比べて最も高くなった。

【居住地域別】

- ・全ての流域で「時間がない」と答えた人の割合が最も高く、特に中流域では 58.5% (前回：38.9%) と前回調査から 19.6 ポイント増加し最も高くなった。
- ・上流域では「興味関心がない」と答えた人の割合が 35.0% (前回：27.3%・7.7 ポイント増加) とその他の流域と比べて 1 割以上高くなった。

図表 環境に関する活動に参加しない理由



（6）環境保全のための寄付へ協力したいと思うか

問 16 あなたは、四万十川やその流域の環境を保全するために、例えば寄付を募(つ)のるとすれば、協力してもよいと思いますか。(1つだけ○印)

【全体】

・「思う」と答えた人の割合は75.5%（前回：77.3%）で、前回調査から1.8ポイントとやや減少した。

【性別】

・「思う」と答えた人の割合は男性が73.2%（前回：71.7%・1.5ポイント増加）、女性が77.8%（前回：82.3%・4.5ポイント減少）で、前回調査と同様に女性の方が「思う」と答えた人の割合が高くなった。

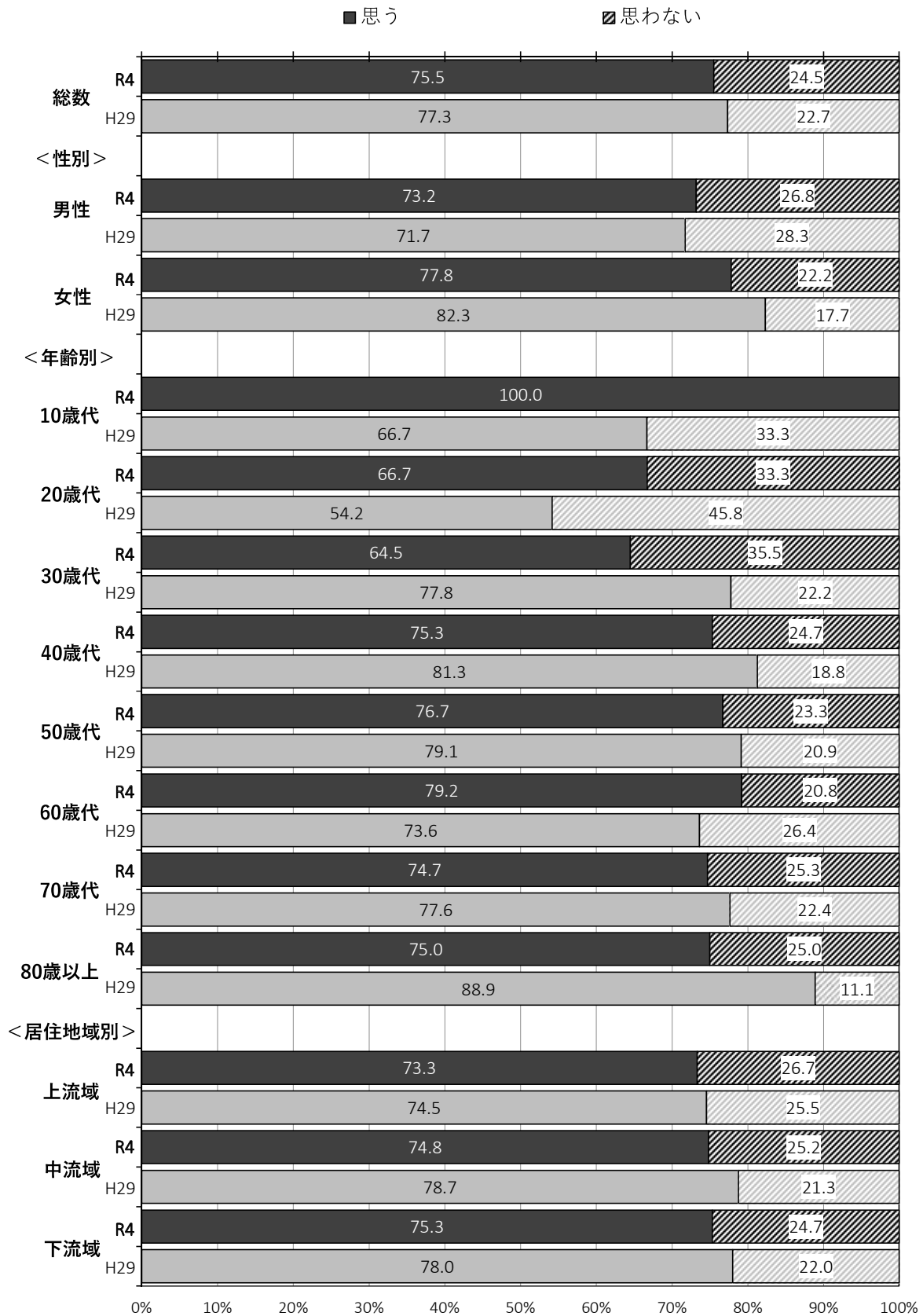
【年齢別】

- ・「思う」と答えた人の割合は10歳代が100.0%（前回：66.7%・33.3ポイント増加）で最も高く、次いで60歳代が79.2%（前回：73.6%・5.6ポイント増加）で、前回調査から増加した。
- ・30歳代～50歳代と70歳代以上では「思う」と答えた人の割合は前回調査より減少し、特に80歳以上では13.9ポイントと最も減少した。

【居住地域別】

・流域間で割合に大きな差はないものの、「思う」と答えた人の割合は下流域が75.3%で僅かに高くなったが、全ての流域で「思う」と答えた人の割合が前回調査よりやや減少した。

図表 環境保全のための寄付へ協力したいと思うか



(7) 環境保全のための寄付協力可能な上限額

問16で「思う」と答えた方にお聞きします。

問17 では、あなたが、1か月あたり協力してもよいと思う金額は、次のどれですか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・ 答えた人の割合が最も高くなったのは、「～500円くらいまで」28.0%で、次いで「～100円くらいまで」27.4%、「～1,000円くらいまで」21.9%であった。『～500円くらいまで』以上（「～500円くらいまで」+「～1,000円くらいまで」+「～2,000円くらいまで」+「それ以上でも協力する」）の金額を答えた人の割合は52.8%（前回：47.8%）で前回調査から5.0ポイント増加した。

【性別】

- ・ 男女ともに「～500円くらいまで」と答えた人の割合が最も高く、『～500円くらいまで』以上の金額を答えた人の割合は男女ともに5割を超えた。

【年齢別】

- ・ 50歳代～60歳代を除いた全ての年代で「～500円くらいまで」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・ 50歳代～60歳代では「～100円くらいまで」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・ 『～500円くらいまで』以上の金額を答えた人の割合が最も高いのは、80歳以上の66.7%（前回：35.7%・31.0ポイント増加）で、次いで70歳代の60.3%（前回：39.1%・21.2ポイント増加）でいずれも前回調査から10ポイント以上増加した。

【居住地域別】

- ・ 『～500円くらいまで』以上の金額を答えた人の割合は、上流域が62.6%（前回：43.8%・18.8ポイント増加）でその他の流域より高くなった。

図表 環境保全のための寄付協力可能な上限額



(8) 再生可能エネルギー設備の設置★

問 18 あなたのご家庭では、環境に配慮した再生可能エネルギー設備を設置していますか。(あてはまるもの全てに○印)

【全体】

・「太陽光発電を設置している」と答えた人の割合は 18.6%で、『設置率』（「太陽光発電を設置している」+「風力発電を設置している」+「バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備を設置している」）は 19.7%であった。

【性別】

・女性より男性の方が1割程度『設置率』が高くなった。

【年齢別】

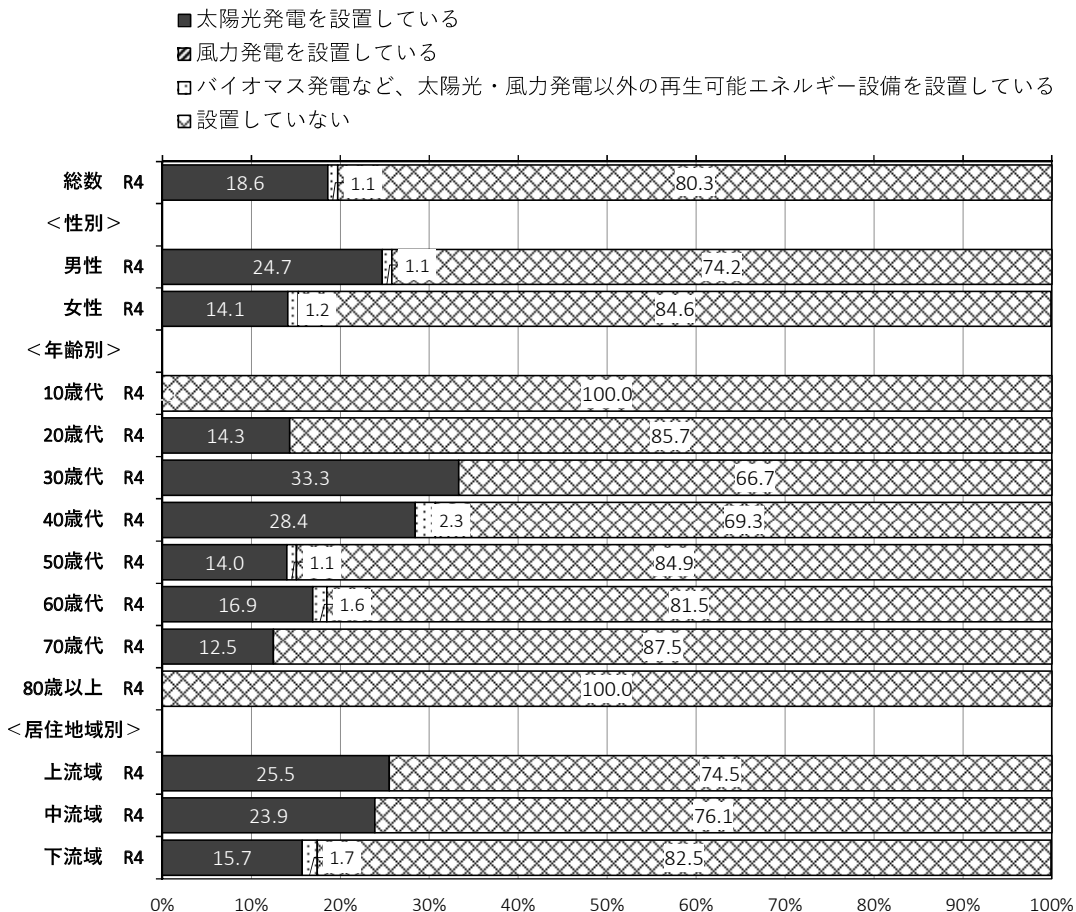
・『設置率』が最も高かったのは 30 歳代の 33.3%で、次いで 40 歳代の 30.7%となった。

【居住地域別】

・「太陽光発電施設を設置している」と答えた人の割合が最も高かったのは上流域の 25.5%で、次いで中流域の 23.9%であった。

・「バイオマス発電など、太陽光・風力発電以外の再生可能エネルギー設備を設置している」と答えた人は下流域のみであった。

図表 再生可能エネルギー設備の設置



4. 通信手段について

(1) 携帯電話などの所有の有無

問 19 あなたは、携帯電話やスマートフォンを持っていますか。(1つだけ○印)

【全体】

- ・「持っている」と答えた人の割合は 96.2%（前回：83.6%）で、前回調査から 12.6 ポイント増加した。

【性別】

- ・性別間で大きな差はなかった。

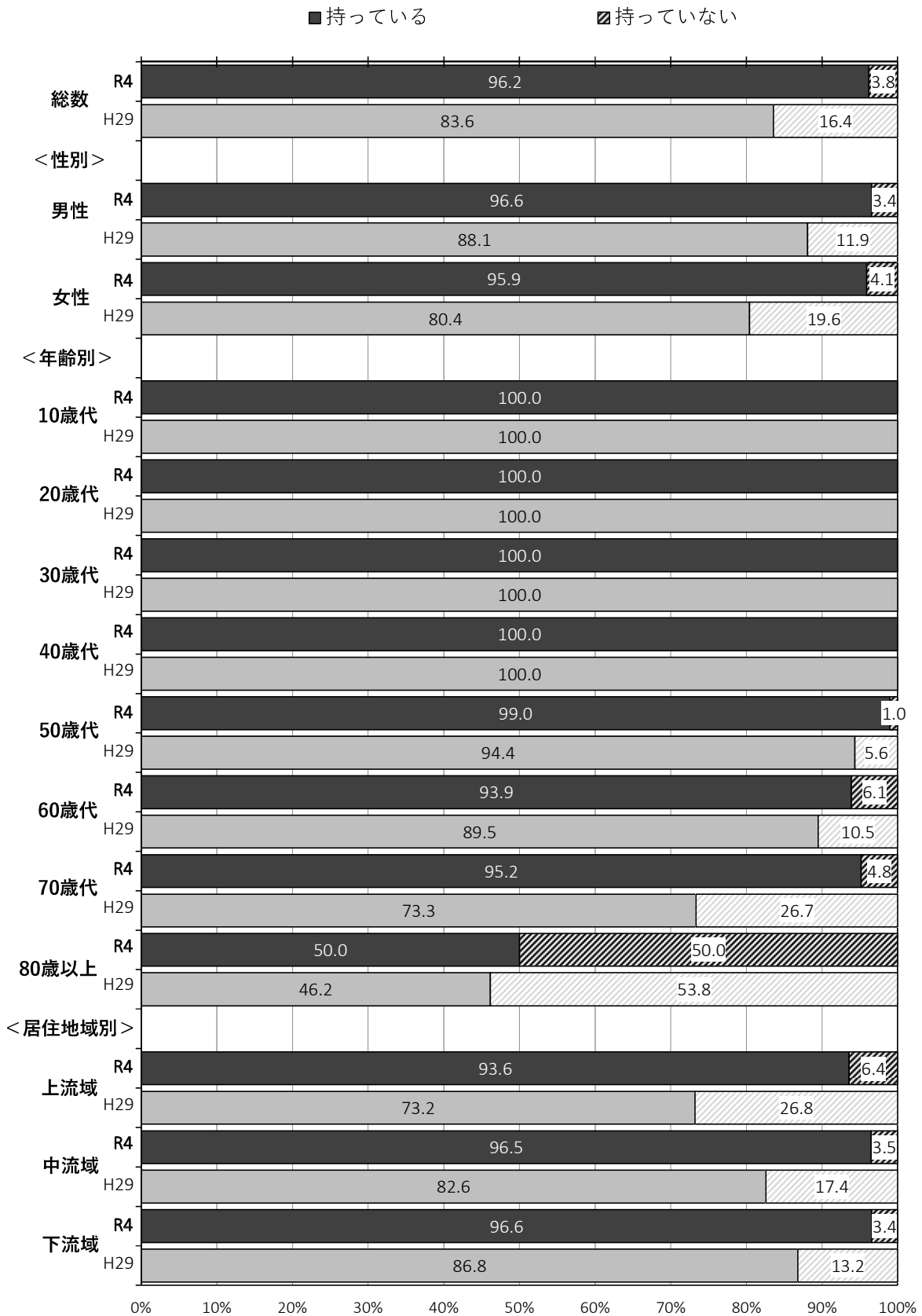
【年齢別】

- ・10 歳代～40 歳代では「持っている」と答えた人の割合が 100.0%であった。
- ・50 歳代～70 歳代では「持っている」と答えた人の割合が9割を超えた。

【居住地域別】

- ・流域間で割合に大きな差はないものの、下流域では「持っている」と答えた人の割合が 96.6%（前回：86.8%）と、前回調査から 9.8 ポイント増加し、最も高くなった。

図表 携帯電話などの所有の有無



(2) 携帯電話などでのネット利用状況

問19で「持っている」と答えた方にお聞きします。

問20では、あなたは、日頃、携帯電話やスマートフォンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）を利用していますか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「いつも利用している」と答えた人の割合が52.7%で半数以上を占めており、『利用率』（「いつも利用している」＋「まあ利用している」）も70.6%（前回：53.4%）と前回調査から17.2ポイント増加した。

【性別】

- ・性別間で割合に大きな差はないものの、男性は「いつも利用している」と答えた人の割合が54.9%（前回：35.6%）で前回調査から19.3ポイント増加した。

【年齢別】

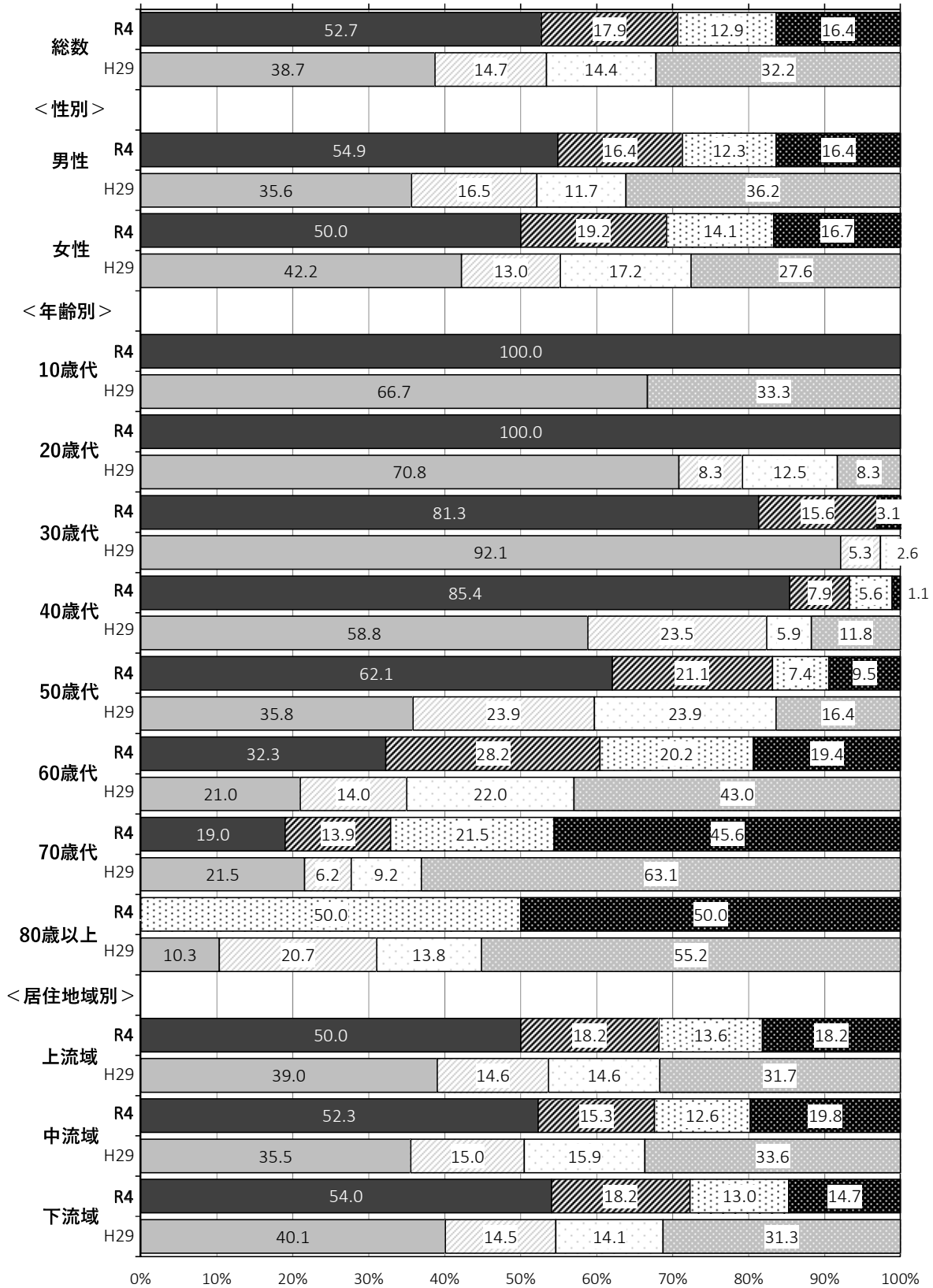
- ・10歳代～20歳代の『利用率』は100.0%で、30歳代、40歳代の『利用率』は9割を超えた。
- ・前回調査時の『利用率』を下回ったのは、30歳代の96.9%（前回：97.4%・0.5ポイント減少）、80歳代以上の0.0%（前回：31.0%・31.0ポイント減少）だった。

【居住地域別】

- ・下流域の『利用率』が72.2%（前回：54.6%）で最も高くなっており、前回調査から17.6ポイントと増加した。

図表 携帯電話などでのネット利用状況

■いつも利用している ▨まあ利用している □あまり利用していない ■全く利用していない



(3) 自宅でのネット利用の可否

問 21 あなたのお宅では、パソコンなどでインターネット（メールやホームページの閲覧など）が利用できますか。（1つだけ○印）

【全体】

- ・「利用できる」と答えた人の割合は 61.4%（前回：44.0%）で、前回調査から 17.4 ポイント増加した。

【性別】

- ・男性が 66.2%（前回：46.0%・20.2 ポイント増加）、女性が 57.1%（前回：43.2%・13.9 ポイント増加）で、女性より男性の方が「利用できる」と答えた人の割合が高くなった。

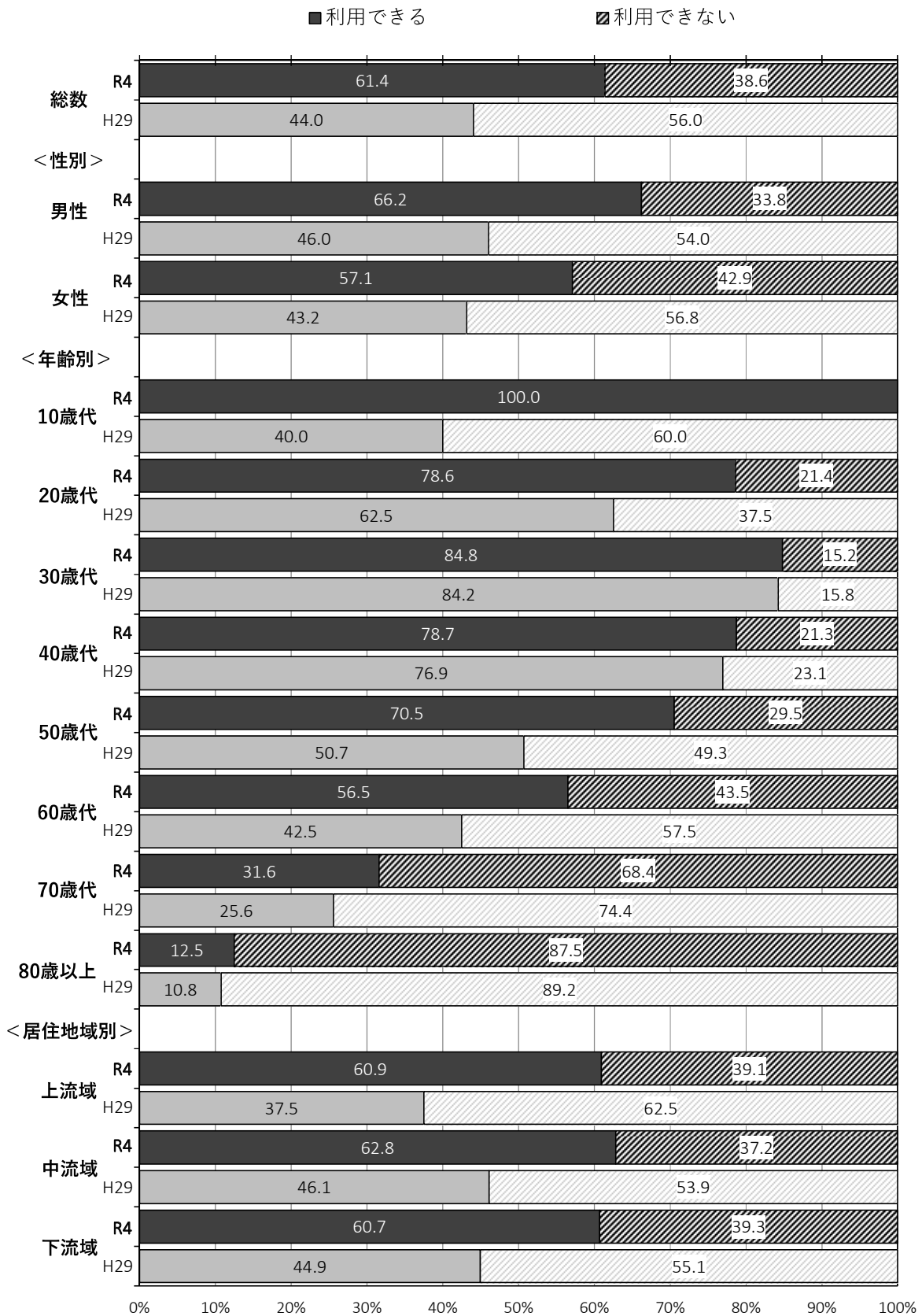
【年齢別】

- ・50 歳代以下では「利用できる」と答えた人の割合が 7 割を超えた。
- ・全年齢において、前回調査時を上回った。

【居住地域別】

- ・中流域では「利用できる」と答えた人の割合が 62.8%（前回：46.1%・16.7 ポイント増加）で最も高くなった。
- ・上流域では「利用できる」と答えた人が 60.9%（前回：37.5%・23.4 ポイント増加）で、最も増加率が高くなった。

図表 自宅でのネット利用の可否



5. 居住意思

(1) 現在の居住地域に住み続けたいと思うか

問 22 あなたは、今お住まいのこの地域にずっと住み続けたいと思いますか。(1つだけ○印)

【全体】

・「そう思っている」と答えた人の割合は87.3%と、前回の86.8%から0.5ポイント増加した。

【性別】

・性別間で割合に大きな差はない。

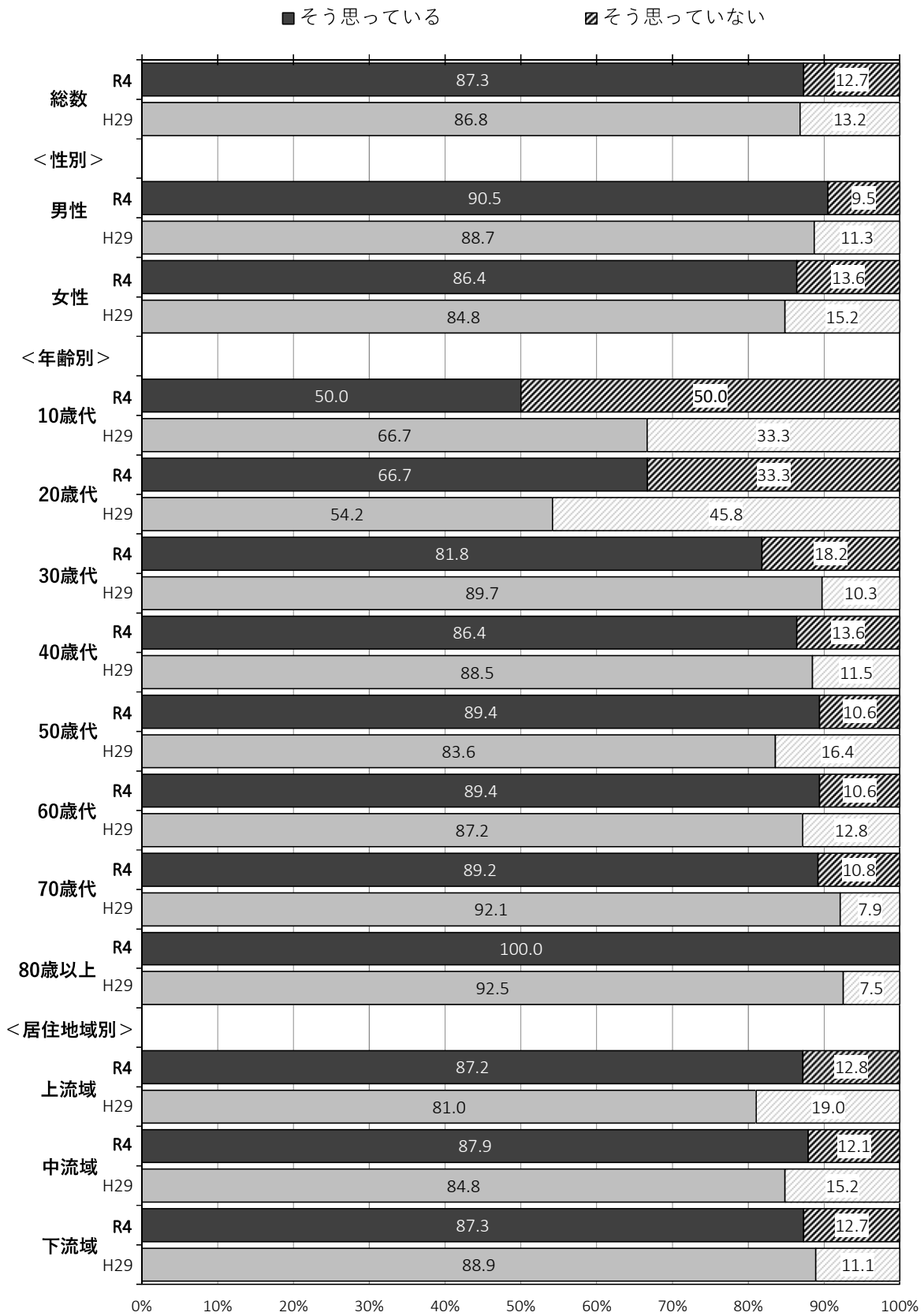
【年齢別】

・20歳代では、「そう思っている」と答えた人の割合は66.7%（前回：54.2%）と前回調査から12.5ポイント増加した。

【居住地域別】

- ・流域間で大きな差はないものの、中流域では「そう思っている」と答えた人の割合が87.9%（84.8%・3.1ポイント増加）と最も高くなった。
- ・下流域においては、「そう思っている」と答えた人の割合が87.3%（前回：88.9%）と、前回調査から1.6ポイント減少した。

図表 現在の居住地に住み続けたいと思うか



6. 生活の満足度

(1) 現在の居住地への満足度

問 23 あなたは、今お住まいの地域を総合的にみて、どの程度満足していますか。(1つだけ○印)
また、その理由を下の枠内に記入してください。

【全体】

- ・「満足している」及び「まあ満足している」と答えた人の割合を合わせた『満足度』は67.9%で、前回調査の68.6%から0.7ポイント減少した。

【性別】

- ・性別間で割合に大きな差はない。

【年齢別】

- ・50歳代以下の年代では『満足度』が前回調査より減少している。
- ・『満足度』が最も低かったのは、20歳代の46.7%（前回：54.1%・7.4ポイント減少）だった。
- ・60歳代以上の年代では『満足度』が7割を超えた。

【居住地別】

- ・中流域の『満足度』は67.2%（前回：62.8%）で、前回調査より4.4ポイント増加した。
- ・「満足している」と答えた人の割合は全ての流域で減少した。

図表 現在の居住地域への満足度



(2) 生活の満足度

問 24 あなたは、今お住まいの地域に関して、どの程度満たされていますか。ア～ニのあてはまる番号に1つずつ○印をつけてください。

【全体】

- ・「まわりに親しめる自然があること」と答えた人の『満足度』（「十分満たされている」＋「かなり満たされている」）は、79.2%（前回：74.3%）で、前回調査より4.9ポイントと最も増加した。
- ・「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること」と答えた人の『満足度』が33.3%（前回：29.0%）で前回調査より4.3ポイント増加した。
- ・「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」と答えた人の『満足度』が26.9%（前回：36.5%）で前回調査より9.6ポイントと最も減少した。
- ・「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」と答えた人の『満足度』が33.2%（前回：39.1%）で、前回調査より5.9ポイント減少した。
- ・『満足度』の高い項目の順位は、前回調査から大きな変化はなかった。
- ・『満足度』の低い項目の順位は、前回調査から大きな変化はないものの、自治体への要望や意見の反映、地位や収入等の項目に加えて公共交通機関の利便性について不満があることがうかがえた。

【性別】

- ・全22項目中12項目において男性のほうが女性より『満足度』が高く、特に男女間で差が大きい項目は以下のとおり。
 - 「祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと」：9.0ポイント差
 - 「高校で自分の目的に合った教育が受けられること」：7.5ポイント差
 - 「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること」：4.9ポイント差

【年齢別】

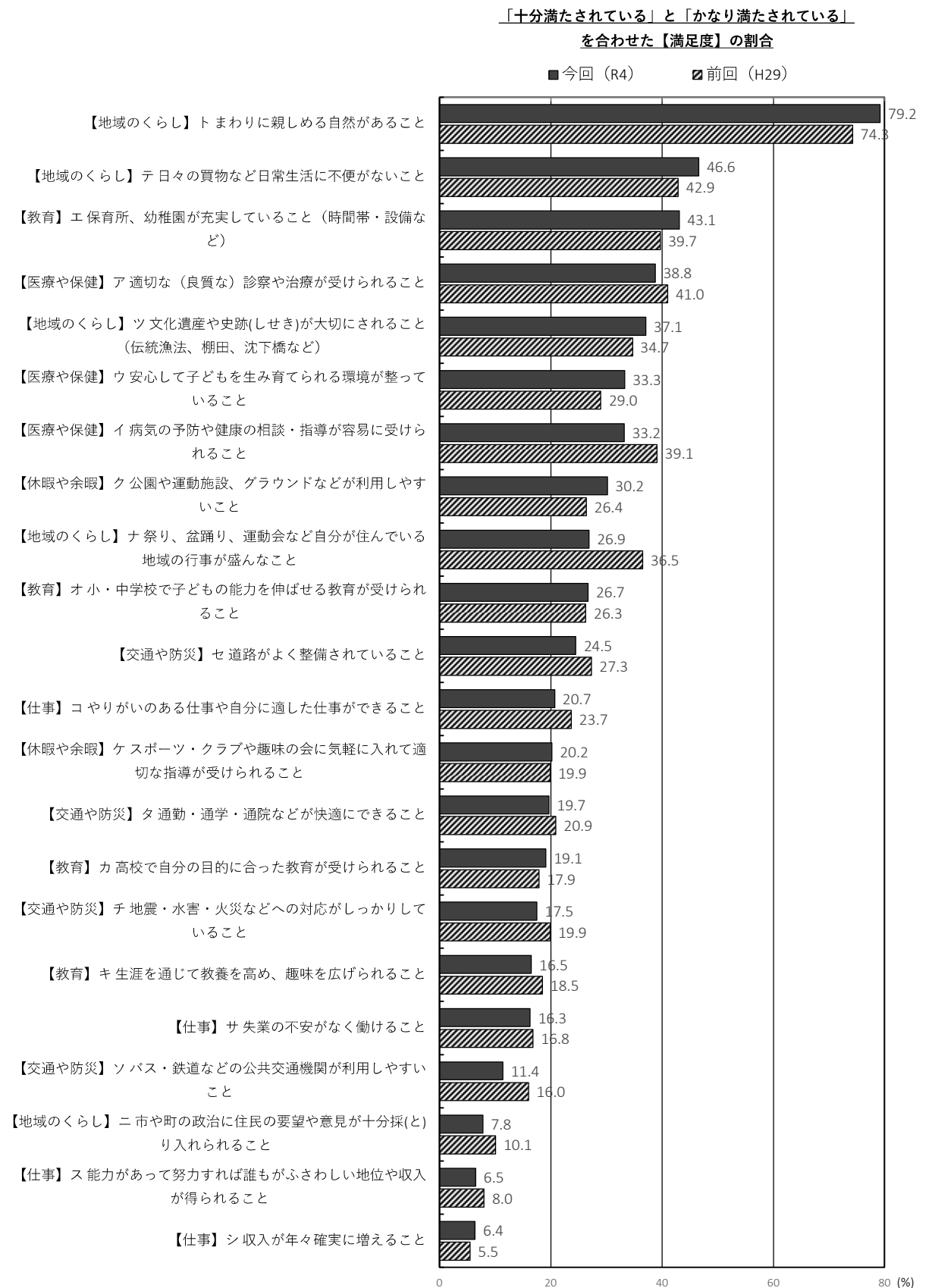
- ・全体をとおして80歳以上の『満足度』が高くなった。
- ・20歳代の『満足度』は最も低い傾向にあり、特に「適切な（良質な）診察や治療が受けられること」の『満足度』は全体の平均から28.0ポイントも下回り、その他の年代と比べて『満足度』が低くなった。
- ・10歳代～20歳代においては、「失業の不安がなく働けること」「収入が年々確実に増えること」「能力があつて努力すれば誰もがふさわしい地位や収入が得られること」の『満足度』が0.0%となっており、労働環境に関する不満があることがうかがえた。

【居住地域別】

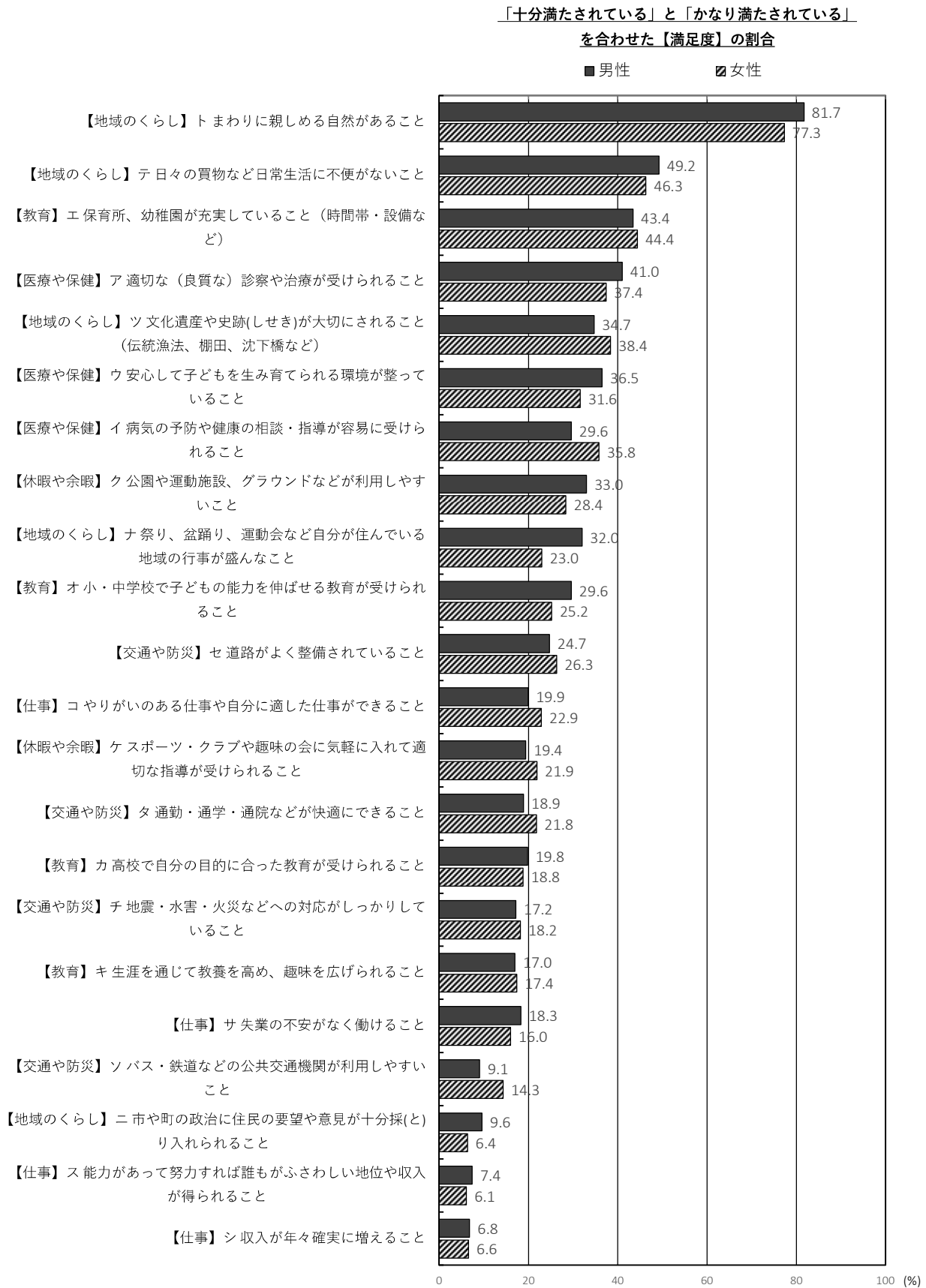
- ・中流域では「安心して子どもを産み育てられる環境が整っていること」「病気の予防や健康の相談・指導が容易に受けられること」の『満足度』が低く、医療や保健に関して不満な状況であることがうかがえた。

・「日々の買物など日常生活に不便がないこと」の項目では、上流域ではその他の流域より『満足度』が低い一方、下流域ではその他の流域より『満足度』が高くなった。

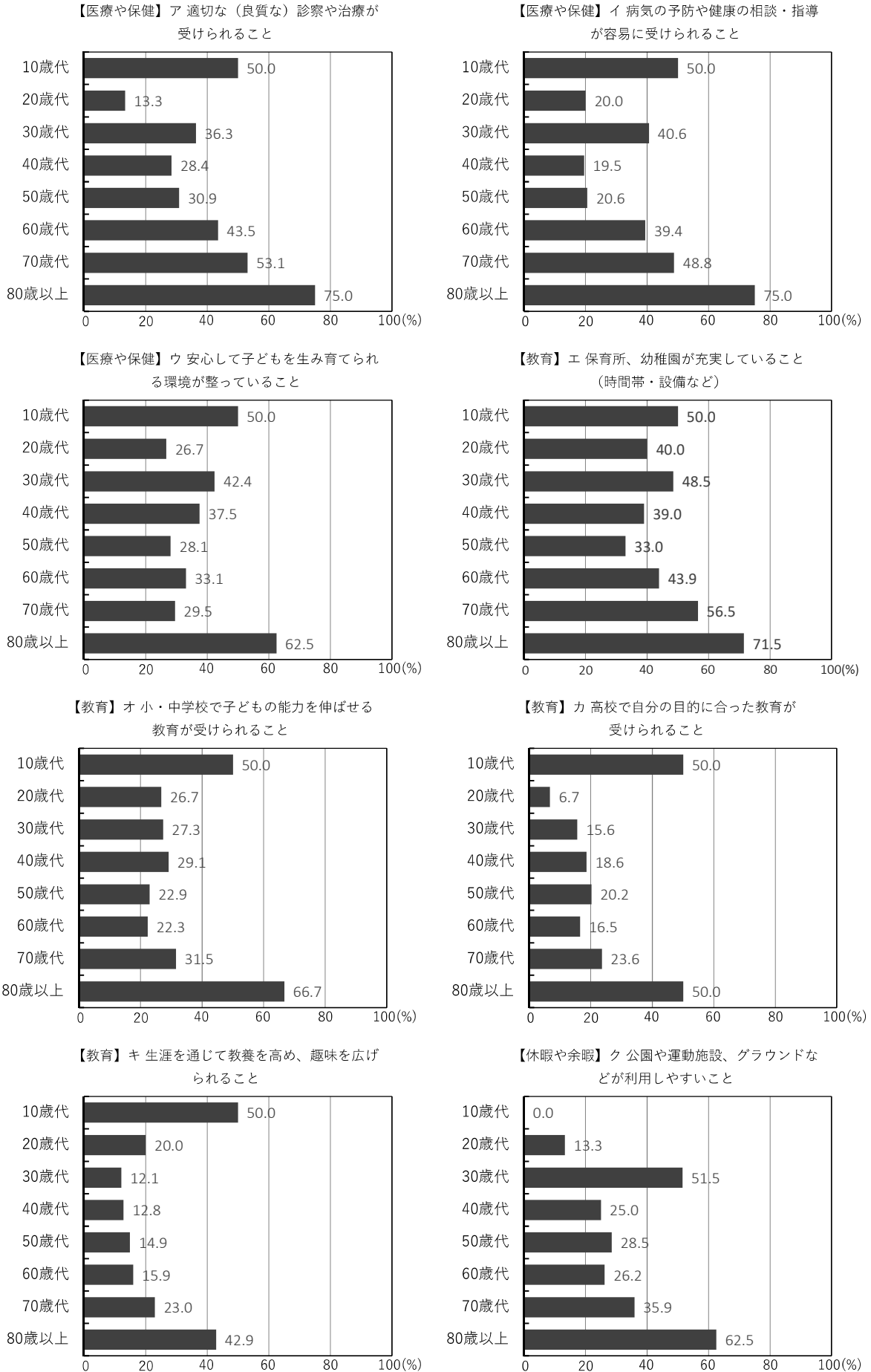
図表 生活の満足度 <全体>



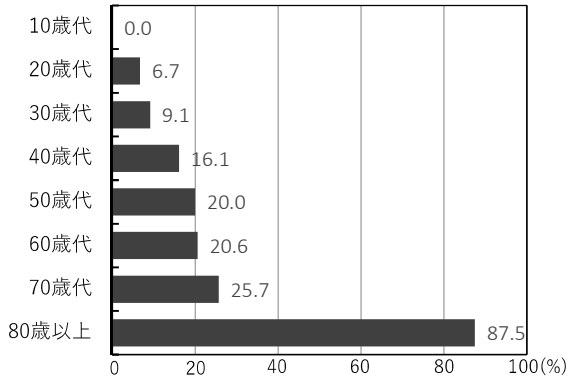
図表 生活の満足度 <性別>



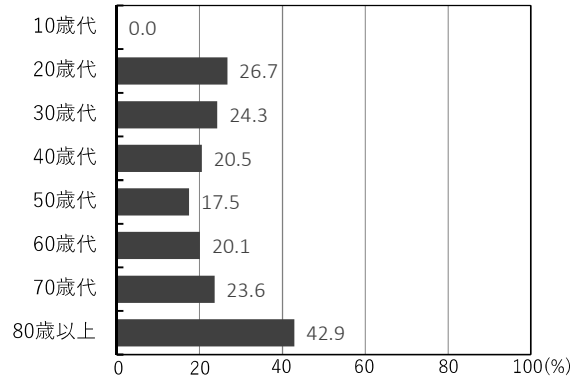
図表 生活の満足度 <年齢別>



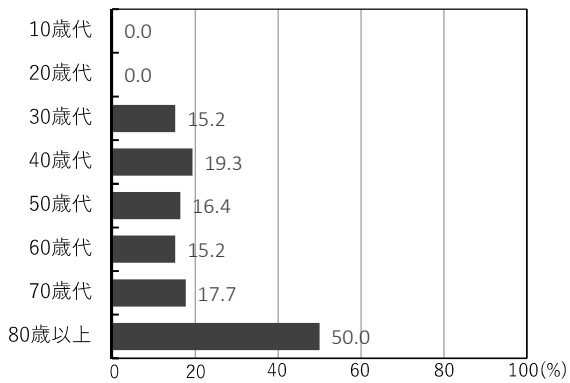
【休暇や余暇】 ケ スポーツ・クラブや趣味の会に
気軽にいられて適切な指導が受けられること



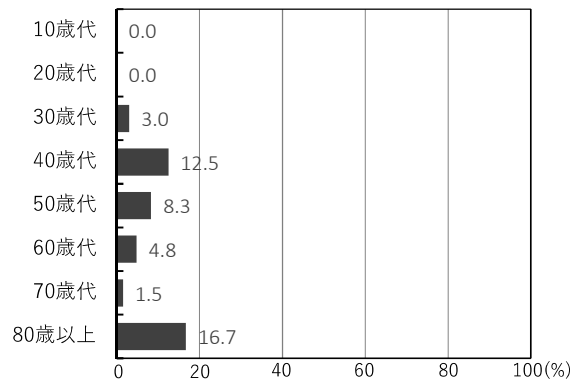
【仕事】 コ やりがいのある仕事や自分に適した
仕事ができること



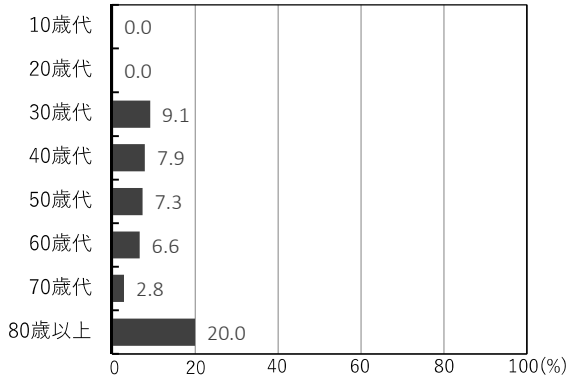
【仕事】 サ 失業の不安がなく働けること



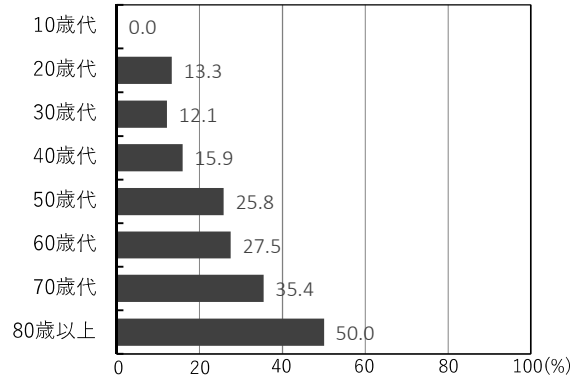
【仕事】 シ 収入が年々確実に増えること



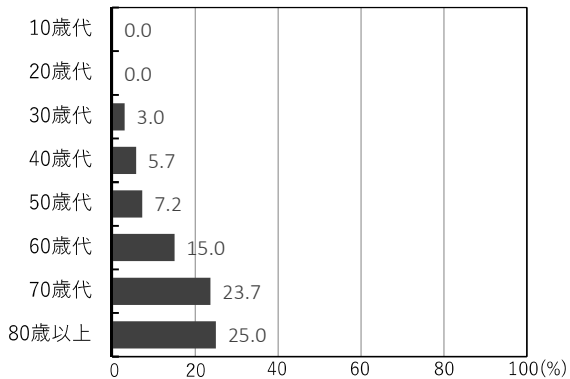
【仕事】 ス 能力があって努力すれば誰もが
ふさわしい地位や収入が得られること



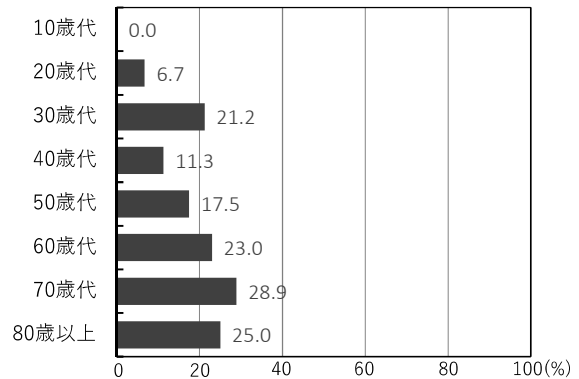
【交通や防災】 セ 道路がよく整備されていること



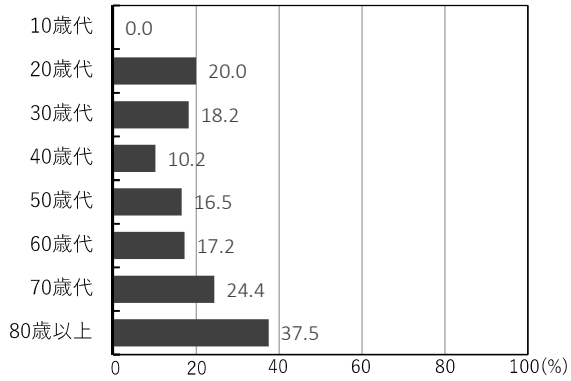
【交通や防災】 ソ バス・鉄道などの公共交通機関
が利用しやすいこと



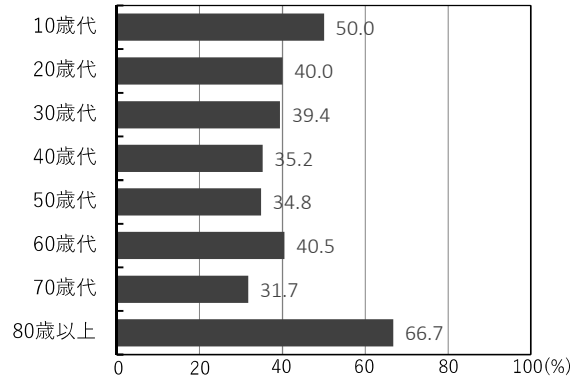
【交通や防災】 タ 通勤・通学・通院などが快適に
できること



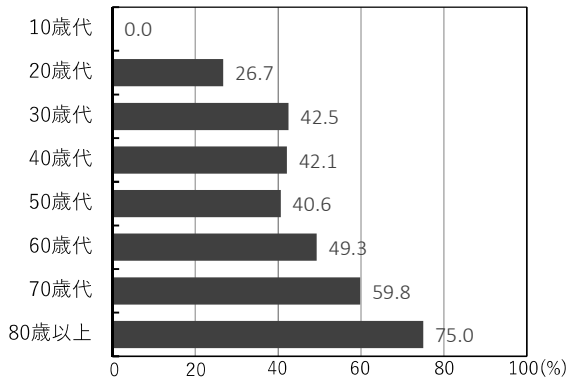
【交通や防災】チ 地震・水害・火災などへの対応がしっかりしていること



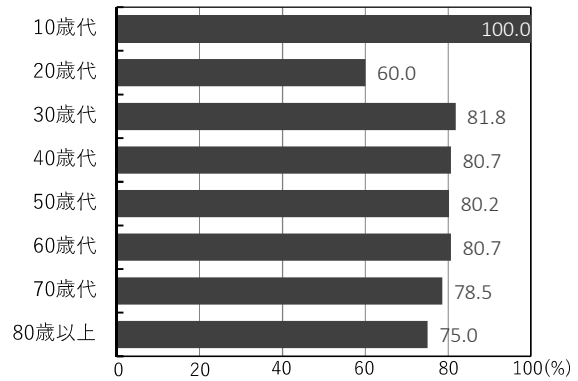
【地域のくらし】ツ 文化遺産や史跡(しせき)が大切にされること (伝統漁法、棚田、沈下橋など)



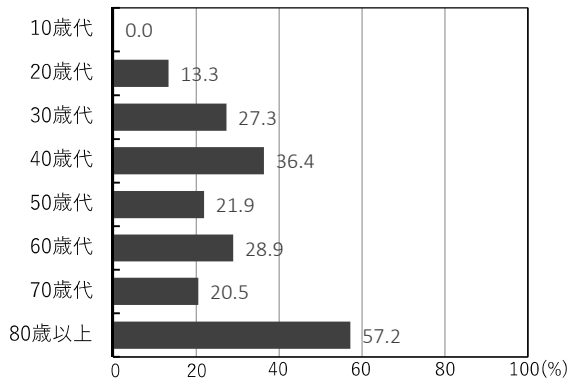
【地域のくらし】テ 日々の買物など日常生活に不便がないこと



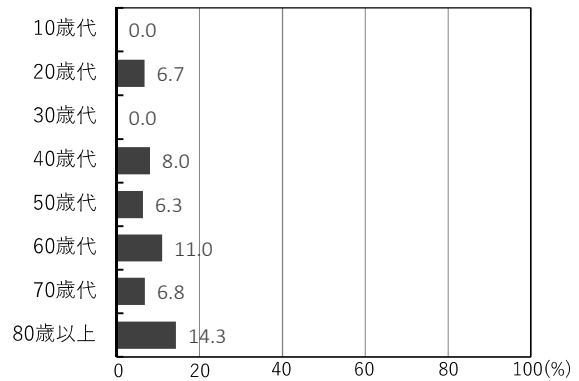
【地域のくらし】ト まわりに親しめる自然があること



【地域のくらし】ナ 祭り、盆踊り、運動会など自分が住んでいる地域の行事が盛んなこと



【地域のくらし】ニ 市や町の政治に住民の要望や意見が十分採(と)り入れられること



図表 生活の満足度 <居住地域別>

